NEC

ボイスメール取扱説明書

はじめに

このたびは、ボイスメールを導入いただき、誠にありがとうございます。
ボイスメールは、通話内容を録音して聞き直したり、録音した通話をほかの人にも聞いてもらうことができます。また、不在のときにかかってきた電話に対して留守番電話のように使える音声メールシステムです。

ボイスメールには、次の2製品があります。利用している製品によって録音可能時間が異なります。詳しくは、システム管理者にご確認ください。

ボイスメールの種類	最大録音時間	備　　考
短時間ボイスメール	2時間	システム制御ユニット実装品
長時間ボイスメール	120時間	オプション品：IP3WW-CF-B1

このマニュアルで使われているマークについて

ちょっと困ったときのアドバイスなどが書かれています
このマニュアルに書かれているとおりに操作しても、主装置やボイスメールの設定などによっては、書かれている内容と違うことが起きる場合があります。このようなとき、迷わないためのアドバイスが書かれています。
また、ちょっと違う使いかたをするときのヒントなどが書かれています。

気を付けていただきたいことが書かれています
この注意を守らないと、操作がうまくできなかったり、思うように進まないことがあります。注意は必ず守ってください。

受話器から聞こえてくるボイスメール音声サービスセンターからのガイダンスです
このガイダンスに従って操作を行います。設定によっては、このマニュアルに書かれているガイダンスと異なる場合があります。

◆ ご注意

(1) 本書の内容の一部または全部を無断転載・無断複写することは禁止されています。
(2) 本書の内容については、将来予告なしに変更することがあります。
(3) 本書の内容については万全を期して作成いたしましたが、万一、ご不審な点や誤り、記載もれなど、お気づきの点がありましたらご連絡ください。

© NEC Infrontia Corporation 2008
NECインフロンティア株式会社の許可なく複製・改変などを行うことはできません。

目　次

はじめに i
目　次 ii

ご利用いただく前に

ボイスメールでできること 1-2
ご使用上の注意 1-5
効率よくお使いいただくために 1-6
　ボイスメール操作用ボタンの利用 1-6
ボイスメール操作用ボタンの機能について 1-7
　ボイスメールの操作用ボタンを登録する 1-8

メールボックスを利用する

基本的な操作のしかた 2-2
　操作の流れ 2-2
　サービス・オプションコード一覧表 2-3
　パスワードを設定する 2-5
自分あてのメッセージを聞く 2-7
　メールボックスボタンでメッセージを聞く 2-7
　音声ガイダンスに従ってメッセージを聞く 2-8
メッセージを録音する 2-9
　相手のメールボックスに直接メッセージを録音する 2-9
　1度の操作で複数の人にメッセージを録音する 2-10
メールボックスを使いこなすための機能 2-12
　メッセージの再生順序を変える 2-12
　メッセージの再生を一定時間とばす 2-13
　メッセージの再生を一定時間戻す 2-13
　メッセージの再生を一時中断する 2-14
　聞き取ったメッセージを、そのままほかの人に送る 2-14
　複数の相手に同じメッセージを録音する 2-16
　メッセージが録音されたとき自動呼び出しさせる 2-19
　メッセージを録音したあと外線を自動で呼び出す 2-21
　自分のメッセージをすべて消去する 2-21
　メッセージ再生中に、相手の番号に電話をかける 2-22
　外線からメッセージを聞き取ったあと、続けて電話をかける 2-23

通話録音サービスを利用する

通話録音サービスの使いかた 3-2
- 常に通話を録音する 3-2
- 手動で通話を録音する 3-3
- ボイスメールからの呼び返しに応答する 3-4

通話録音中に行える操作 3-5
- 録音内容を消去する 3-5
- 録音内容を消去したあと録音を再度行う 3-5

留守番電話サービスを利用する

留守番電話として使う 4-2

内線留守番サービスの使いかた 4-3
- 内線留守番サービスの設定と解除 4-3
- 応答メッセージの録音・確認・消去 4-5
- 応答メッセージを切り替える 4-7
- 相手のメッセージを録音しないようにする 4-8
- 内線留守番サービスを利用している電話機に電話をかける 4-9
- 外線からメッセージを聞く 4-10

外線留守番サービスの使いかた 4-12
- 応答メッセージの録音・確認・消去 4-12
- 応答メッセージを指定する 4-14
- 外線留守番サービスを利用している外線に電話をかける 4-15
- 外線からメッセージを聞く 4-16

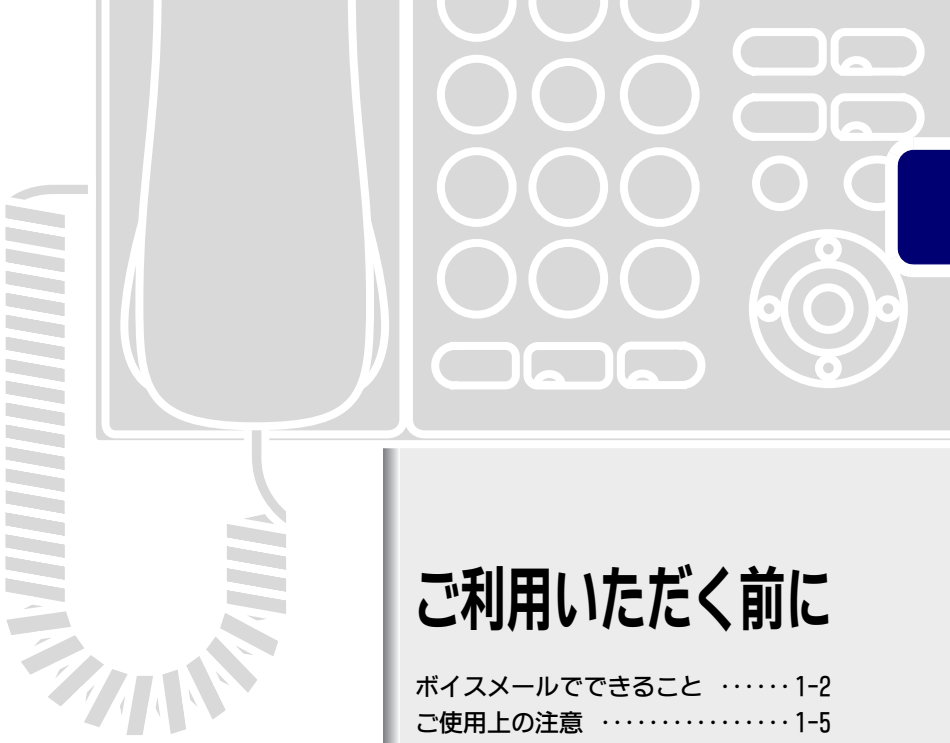
受注伝言サービスの使いかた 4-17
- 受注伝言サービスの動作 4-17
- 各担当者が行うこと 4-18

システム管理者の方へ

運用するにあたって 5-2
- ボイスメールの仕様 5-2
- 保守および機器の交換について 5-2
- メールボックスの種類 5-3
- ボイスメールを利用するための設定 5-4
- ボイスメール基本設定 5-4
- メールボックス番号の設定 5-6
- 留守録動作設定 5-6

通話録音動作設定 5-7
着信通知動作設定 5-7
外線留守録動作設定 5-8
固定ガイダンス言語設定（システム単位） 5-9
固定ガイダンス言語設定（メールボックス単位） 5-9
同報グループ設定 5-9
音声アナウンス機能設定 5-10
その他の設定 5-11
メールボックス管理シート 5-13

索　引 索-1



ご利用いただく前に

ボイスメールでできること ……1-2
ご使用上の注意 ……1-5
効率よくお使いいただくために …1-6
ボイスメール操作用ボタンの
　機能について ……1-7

ボイスメールでできること

ボイスメールは、次のように利用できます。

▼ 自分の声を録音して送ったり、届いたメッセージを聞く

< メールボックスサービス >

ボイスメールの利用者は、自分のメールボックスを持つことができます。メールボックスを持つと、声のメッセージを送ったり、届いたメッセージを聞くことができます。
また、自分あてに届いたメッセージをほかの人に聞いてもらいたい場合は、その人のメールボックスに転送することができます。

メールボックスに新しいメッセージが届くと、次のようにお知らせします。

◆ デジタル多機能電話機の場合
大型ランプが点滅します。また、メールボックスボタンを登録しておくと、メールボックスボタンも点滅します。

◆ DSSコンソールの場合
メールボックスボタンを登録しておくと、メールボックスボタンのランプが赤点滅します。

◆ マルチラインデジタルコードレス電話機の場合
メッセージランプが点滅します。また、メールボックスボタンを登録しておくと、メールボックスボタンも点滅します。

◆ メッセージウェイティングランプ付き一般電話機の場合
メッセージウェイティングランプが点滅します。

◆ ディスプレイボードの場合
伝言表示ランプが赤点滅します。

こんなときは

メールボックスとは

“声の手紙”をやりとりするための私書箱のようなものです。このメールボックスは、ほかの人からのメッセージを受けるだけでなく、自分で録音した通話内容を保存しておき、あとで聞き直すことができます。

▼ 通話内容を録音する

＜ 通話録音サービス ＞

電話で話しながらメモを取るのは、通話に集中できなかったり、メモが追いつかず、十分な伝達ができないなど、不便な場合があります。ボイスメールを利用すると、通話内容をまるごと録音できるので、正確に伝達することができます。
通話録音のしかたには、次の2通りがあります。

◆ 外線自動通話録音
外線から電話がかかってきたとき、受話器を上げて応答すると同時に、自動で通話録音が始まります。また、外線に電話をかけたとき、相手が電話に応答すると同時に、自動で通話録音が始まります。この自動通話録音を行うためには、工事段階の設定が必要です。

◆ 手動通話録音
外線と通話中に、通話内容を録音しておきたいときは、あらかじめ電話機に登録してある通話録音ボタンを押します。大切な部分だけを録音したいときに使います。

▼ 留守番電話として利用する

＜ 内・外線留守番サービス ＞

◆ 内線留守番サービス
離席中や不在時、内線からかかってきた電話に、ボイスメールが留守番電話として応対します。

◆ 外線留守番サービス
電話に応答できない曜日や時間帯を運用モードで設定しておくと、指定した電話番号に外線からかかってきた電話に、ボイスメールが留守番電話として応対します。

こんなときは

メッセージが届いたら

どちらの場合も、指定した内線や外線に自動発信し、メッセージが録音されたことを知らせることができます。

ご使用上の注意

▼ 使用環境について

雑音の多い場所、特に大型エアコンやコンプレッサーなどの近くでは、電話機を使用しないでください。雑音などが原因となり、ボイスメールが誤動作することがあります。

▼ ボイスメールを利用できる電話機について

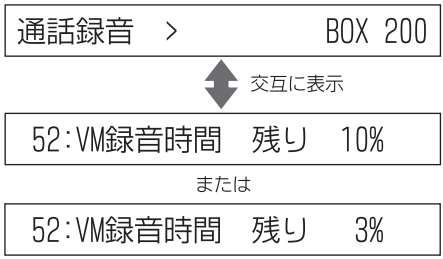
ボイスメールを利用できるのは、デジタル多機能電話機、マルチラインデジタルコードレス電話機、プッシュ信号（PB）を送出できる一般電話機です。
社外からボイスメールを利用する場合は、プッシュ信号（PB）を送出できる電話機かどうかを確認してください。

▼ プライバシー保護について

通話録音を行うときは、プライバシー保護のため、相手に了解を得てからご使用ください。

▼ メールボックスの録音時間残量警告表示について

メールボックスの録音可能時間の残りが10%以下または3%以下になると、電話機の表示器に次の警告が表示されます。



上記のように表示されたときは、メールボックスに録音されているメッセージを聞き取り、消去してください。そのまま使い続けると、通話録音中に残り時間がなくなり、重要な通話が録音できなくなることがあります。

こんなとき

通話録音やメッセージの録音途中で録音可能時間がなくなった場合
それまでの録音内容は保存され、メールボックスへの録音が終了します。

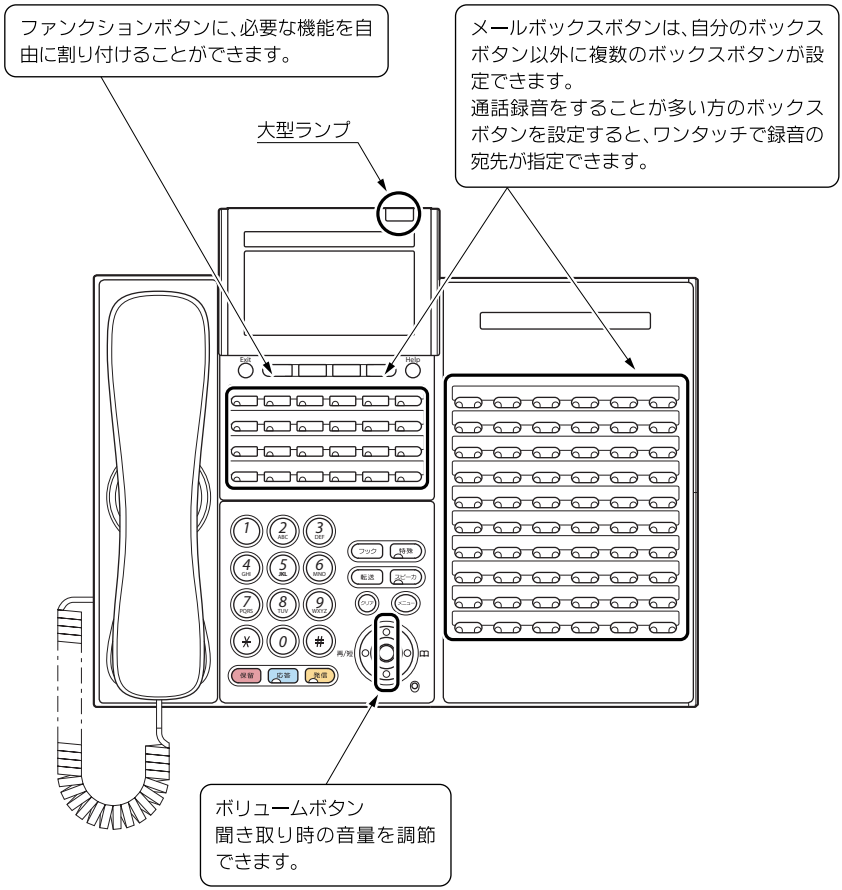
録音可能時間の残りの目安
ボイスメール全体の録音可能時間に対する残量の目安は、次のとおりです。
- 10%：短時間ボイスメール…約12分、長時間ボイスメール…約12時間
- 3% ：短時間ボイスメール…約4分、長時間ボイスメール…約3.6時間

効率よくお使いいただくために

ボイスメール操作用ボタンの利用

デジタル多機能電話機やDSSコンソール、マルチラインデジタルコードレス電話機のファンクションボタンに、ボイスメールの操作用ボタンを登録しておくと、効率よくボイスメールをご使用いただけます。

▼24ボタンデジタル多機能電話機とDSSコンソールの設定例



ボイスメール操作用ボタンの機能について

ボイスメールの操作用ボタンには、次のような種類・機能があります。
通話録音ボタンやメールボックスボタンなど必要なボタンを、自分の電話機に登録してください。詳しくは、『ボイスメールの操作用ボタンを登録する』（⇒P. 1-8）を参照してください。

ボタン名称	機能ボタン番号	機能内容	ボタンランプ表示	
通話録音	69＋0	手動通話録音の開始、終了	録音中（宛先未設定）	速い赤点滅
			録音中（宛先指定後）	赤点灯
メールボックス	67＋ボックス番号	• 録音内容の保存先メールボックスの指定 • 保存されているメッセージの確認	新しいメッセージが保存されている場合	速い赤点滅
			メッセージ確認後（注）	赤点灯
			メッセージ登録規制設定中	遅い赤点滅
			メッセージの全消去後	消灯
消去・再録音	69＋1	通話録音の取り消し、再録音	−	−
消去	69＋2	通話録音のキャンセル、消去	−	−
通話録音 - 呼出	69＋3	通話録音の内容を保存したメールボックスの通知先に通知（着信代行設定不要）	−	−
留守番電話	70＋ボックス番号	着信または話中代行の設定	着信代行設定中	赤点灯
			話中代行設定中	赤点滅
スキップ	68＋0	メッセージをとばして再生	−	−
バックスキップ	68＋1	メッセージを戻して再生	−	−
留守番応答メッセージ切替	71＋ボックス番号	応答メッセージの切り替え	応答メッセージNo. 1	消灯
			応答メッセージNo. 2	赤点灯
			応答メッセージNo. 3	赤点滅

（注）新しいメッセージが複数ある場合、1件でも確認するとボタンランプは赤点灯になります。

こんなときは

メッセージランプ（デジタル多機能電話機の大型ランプ）とDSSコンソールのメールボックスボタンのランプ表示

次のように表示されます。

- メッセージランプ
  - 新しいメッセージが保存されると　：速い緑点滅
  - メッセージを聞き取ると　：消灯
- DSSコンソール
  - 新しいメッセージが保存されると　：速い赤点滅
  - メッセージを聞き取ると　：赤点灯
  - メッセージをすべて消去すると　：消灯

ボイスメールの操作用ボタンを登録する

次のボタンに、ボイスメールの操作用ボタンを割り付ける方法です。

- デジタル多機能電話機のファンクションボタン
- マルチラインデジタルコードレス電話機のファンクションボタン
- DSSコンソールのボタン

注意

ファンクションボタンに機能を割り付ける場合は、必ず電話機の受話器を戻した状態で行ってください。

▼ 登録のしかた

1 スピーカを押す

2 ⑨①⑦を押す

917は、機能ボタン設定（一般機能レベル）の特番（初期値）です。

```
ｷｰ ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ
```

3 割り付けたい（ファンクションボタン）を押す

```
ｷｰ ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ          ｷｰ 16
                NOT DEFINE
```

4 機能ボタン番号を押す

機能ボタン番号は『ボイスメール操作用ボタンの機能について』（⇒P. 1-7）を参照してください。

例：690（通話録音ボタンの機能番号）を押した場合

```
ｷｰ ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ          ｷｰ 16
                通話録音
```

5 スピーカを押す

これで、ボイスメールの操作用ボタンの登録ができました。

こんなときは

複数のボイスメールの操作用ボタンを登録したい

手順3と手順4をくり返します。

▼ 確認のしかた

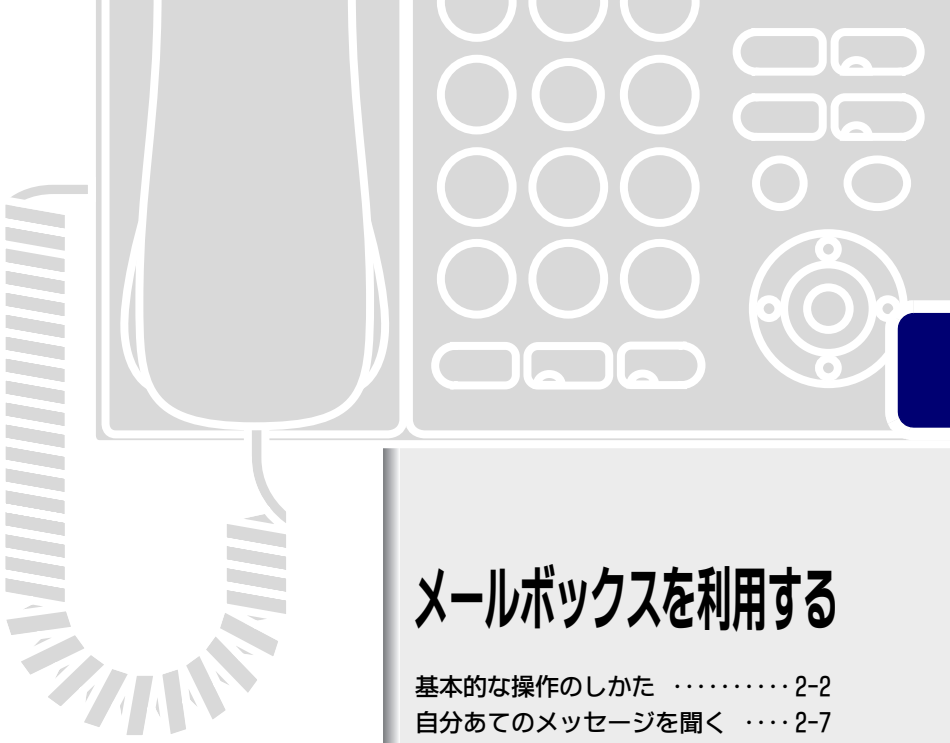
1 Help ◯ を押す

2 ▭（ファンクションボタン）を押す

押したファンクションボタンの登録内容が表示されます。

3 Exit ◯ を押す

元の表示に戻ります。



メールボックスを利用する

基本的な操作のしかた ・・・・・・・・・・2-2
自分あてのメッセージを聞く ・・・・2-7
メッセージを録音する ・・・・・・・・・・2-9
メールボックスを使いこなすための機能 ・・・・・・・・・・・・・・・・2-12

基本的な操作のしかた

操作の流れ

メールボックスサービスを利用するときの、基本的な操作の流れは次のとおりです。

1 受話器を上げる

2 ⑧③⑨を押す

839は、ボイスメールセンター呼出の特番（初期値）です。

ガイダンス「音声サービスセンターです。ボックス番号をどうぞ」

3 自分のメールボックス番号を押したあと、#を押す

操作している電話機に対応するメールボックスにアクセスする場合は、＃だけを押して手順4に進むこともできます。

例：自分のボックス番号が100番の場合、100＃と押します。

ガイダンス「パスワードをどうぞ」

パスワードを設定していない場合は、手順5に進んでください。

4 パスワードを入力したあと、#を押す

例：自分のパスワードが「1234」の場合、1234＃と押します。

ガイダンス「サービスコードをどうぞ」

5 サービスコードを入力する

利用するサービス機能に該当する、サービスコードのダイヤルボタンを押してください。
サービス機能にオプション機能がある場合は、音声ガイダンスに従って該当するオプションコードのダイヤルボタンを押してください。
詳しくは『サービス・オプションコード一覧表』(⇒P. 2-3)を参照してください。

6 ⋇#を押す

7 受話器を戻す

こんなときは

パスワードについて

パスワードはメールボックスごとに設定できます。メールボックスを自分専用で使いたいときなどに設定してください。詳しくは『パスワードを設定する』(⇒P.2-5)を参照してください。

ボイスメールセンター呼出の特番とは

音声サービスセンターを呼び出すための番号で、工事段階で決められています。システム管理者に確認してください。

システム管理者とは

お客様側で、ボイスメールの使用状況などを管理していただく方です。ボイスメールの、どのサービスを利用するかなどを、工事者と相談して決めます。また、ボイスメールの運用開始後に、必要に応じて設定の変更なども行います。
ボイスメールのご使用にあたり、不明点などがある場合には、システム管理者にご相談ください。

サービス・オプションコード一覧表

ボイスメールの各サービスを利用するには、操作コードを入力します。操作コードには、次の2種類があります。

- サービスコード　：音声ガイダンスに従って、サービスを選ぶための番号
- オプションコード：サービス内でのオプション設定や操作を選ぶための番号

サービスコード・オプションコードの種類は、次のとおりです。

サービス機能	サービスコード	サービス内のオプション機能	オプションコード
ヘルプガイダンス	0#	−	−
メッセージ聞き取り	1#	メッセージをくり返し再生	1#
		メッセージ再生の中断／再開	4#
		メッセージを消去し次を再生	7#
		メッセージを保存し次を再生	9#
		メッセージのコピー	2#
		メッセージのスキップ	3#
		メッセージのバックスキップ	6#
		聞き取ったメッセージの同報	28#
		サービス終了	*#
メッセージ同報	2#	−	−
メッセージ全消去	7#	−	−
メッセージの連続再生	18#	−	−

サービス機能		サービスコード	サービス内のオプション機能	オプションコード
応答メッセージNo. 1	再生	31#	−	−
	登録	32#	−	−
	消去	37#	−	−
応答メッセージNo. 2	再生	35#	−	−
	登録	33#	−	−
	消去	38#	−	−
応答メッセージNo. 3	再生	36#	−	−
	登録	34#	−	−
	消去	39#	−	−
外線からメッセージ聞き取り後の内線呼出		50#	−	−
外線からメッセージ聞き取り後のDISA機能		51#	−	−
ダイヤルイン変換テーブルによる転送		52#	−	−
メッセージ着信通知設定		61#	内線呼出	1#
			外線呼出	2#
			設定解除	0#
			サービス終了	*#
着信代行設定		62#	−	−
メッセージ再生登録順設定		63#	−	−
メッセージ再生最新順設定		64#	−	−
パスワード設定		65#	−	−
メッセージ登録規制設定		66#	−	−
サービス終了		*#	−	−

パスワードを設定する

メールボックスに、4桁のパスワードを設定しておくと、自分専用のメールボックスとして使うことができます。

1 受話器を上げる

2 ⑧③⑨を押す

839は、ボイスメールセンター呼出の特番（初期値）です。

ガイダンス「音声サービスセンターです。ボックス番号をどうぞ」

3 自分のメールボックス番号を押したあと、#を押す

例：自分のボックス番号が100番の場合、100＃と押します。

ガイダンス「サービスコードをどうぞ」

4 ⑥⑤#を押す

ガイダンス「登録するパスワードをどうぞ」

5 登録する4桁のパスワードを入力したあと、#を押す

例：「1234」とパスワードを登録したい場合、1234＃と押します。

ガイダンス「1234ですね。よろしければ、0と＃、違うときは、1と＃をダイヤルしてください」

※「9999」はパスワードとして登録できません。

6 ⓪#を押す

ガイダンス「パスワードを登録しました。サービスコードをどうぞ」

7 受話器を戻す

これで、パスワードが設定できました。

パスワードを変更する場合

次の手順で変更してください。

① 手順1～3の操作を行う
「パスワードをどうぞ」というガイダンスが流れます。
② パスワードを入力したあと、㊋を押す
「サービスコードをどうぞ」というガイダンスが流れます。
③ 手順4～7の操作を行う

パスワードを消去する場合

次の手順で消去してください。

① 手順1～3の操作を行う
「パスワードをどうぞ」というガイダンスが流れます。
② パスワードを入力したあと、㊋を押す
「サービスコードをどうぞ」というガイダンスが流れます。
③ 手順4の操作を行う
④ 9999＃を押す
以降の操作はガイダンスに従ってください。

パスワードを忘れた場合

システム管理者にご相談ください。

自分あてのメッセージを聞く

自分のメールボックス内のメッセージを聞き取る方法には、次の2通りがあります。
- メールボックスボタンでメッセージを聞く
- 音声ガイダンスに従ってメッセージを聞く

メールボックスボタンでメッセージを聞く

あらかじめ、メールボックスボタンを設定しておくと簡単にメッセージを聞き取ることができます。設定のしかたについては『ボイスメールの操作用ボタンを登録する』(⇒P. 1-8)を参照してください。

1 受話器を上げる

2 メールボックスボタンを押す

ガイダンス「パスワードをどうぞ」

パスワードを設定していない場合は、手順4に進んでください。

3 パスワードを入力したあと、(#)を押す

例：自分のパスワードが「1234」の場合、1234＃と押します。

ガイダンス「××件です」

4 メッセージが再生される

メッセージは、最新のものから順番に再生されます（初期設定）。
〈1つのメッセージを聞き取ると〉

ガイダンス「オプションコードをどうぞ」

5 オプションコードを入力する

『サービス・オプションコード一覧表』(⇒P. 2-3)を参照してください。
オプション機能を使用しない場合は、手順6に進んでください。

6 受話器を戻す

こんなときは

メッセージがない場合

「メッセージは、登録されていません。サービスコードをどうぞ」というガイダンスが流れます。
操作を終了するときは、受話器を戻してください。

音声ガイダンスに従ってメッセージを聞く

一般電話機や、メールボックスボタンを設定していないデジタル多機能電話機、またはマルチラインデジタルコードレス電話機でメッセージを聞く場合は、次の手順で聞き取ることができます。

1 受話器を上げる

2 ⑧③⑨を押す

839は、ボイスメールセンター呼出の特番（初期値）です。

ガイダンス「音声サービスセンターです。ボックス番号をどうぞ」

3 自分のメールボックス番号を押したあと、#を押す

例：自分のボックス番号が100番の場合、100＃と押します。

ガイダンス「パスワードをどうぞ」

パスワードを設定していない場合は、手順5に進んでください。

4 パスワードを入力したあと、#を押す

例：自分のパスワードが「1234」の場合、1234＃と押します。

ガイダンス「サービスコードをどうぞ」

5 ①#を押す

ガイダンス「××件です」

6 メッセージが再生される

メッセージは、最新のものから順番に再生されます（初期設定）。

ガイダンス「オプションコードをどうぞ」

7 オプションコードを入力する

『サービス・オプションコード一覧表』（⇒P. 2-3）を参照してください。
オプション機能を使用しない場合は、手順8に進んでください。

8 受話器を戻す

こんなとき

メッセージがない場合

「メッセージは、登録されていません。サービスコードをどうぞ」というガイダンスが流れます。
操作を終了するときは、受話器を戻してください。

メッセージを録音する

用件を伝えたり、音声でメモをとるために、ほかの人や自分のメールボックスにメッセージを録音することができます。

相手のメールボックスに直接メッセージを録音する

相手のメールボックスに、直接メッセージを録音できます。

1 受話器を上げる

2 ⑧③⑨を押す

839は、ボイスメールセンター呼出の特番（初期値）です。

ガイダンス「音声サービスセンターです。ボックス番号をどうぞ」

3 ⑳を押してメッセージを録音する相手のメールボックス番号を押したあと、⑯を押す

例：相手のボックス番号が107番の場合、＊107＃と押します。

ガイダンス「メッセージをどうぞ。ピピッ」

4 メッセージを録音する

5 受話器を戻す

これで、相手のメールボックスにメッセージが録音できました。

こんなときは

手順3の操作のあと「現在、メッセージは登録できません」というガイダンスが流れたときは

相手のメールボックスのメッセージ録音件数が、200件を超えています。
1つのメールボックスに録音できる件数は、200件までです。

1度の操作で複数の人にメッセージを録音する

＜ 同報メッセージ ＞

複数の人に、同時にメッセージを録音することができます。メッセージが届いた多機能電話機では、大型ランプが点滅して知らせます。

注意 同報メッセージの送り先（聞き取りができる電話機）は、あらかじめ工事段階で設定しておきます。詳しくは、販売店にご相談ください。

▼ 同報メッセージを録音／確認／消去する

《 メッセージを録音する 》

1 受話器を上げる

2 ㊅②②を押す
＊22は、VRS同報メッセージの録音／再生／消去の特番（初期値）です。

3 ⑦を押す
7は、録音の番号です。

4 メッセージを録音する

5 受話器を戻す

これで、同報メッセージが録音できました。
同報メッセージを聞くことができる多機能電話機の大型ランプが緑色で点滅します。

《 メッセージを確認する 》

1 受話器を上げる

2 ㊅②②を押す
＊22は、VRS同報メッセージの録音／再生／消去の特番（初期値）です。

3 ⑤を押す
5は、再生の番号です。

4 メッセージが再生される

5 受話器を戻す

これで、同報メッセージを確認できました。

《 メッセージを消去する 》

1 受話器を上げる

2 ⑭②②を押す
＊22は、VRS同報メッセージの録音／再生／消去の特番（初期値）です。

3 ③を押す
3は、消去の番号です。

4 受話器を戻す

これで、同報メッセージが消去できました。
多機能電話機の大型ランプが消灯します。

▼ 同報メッセージを聞き取る

大型ランプが緑色に点滅している多機能電話機で、聞き取ることができます。

1 受話器を上げる

2 ⑭②①を押す
＊21は、VRS同報メッセージの再生の特番（初期値）です。

3 メッセージが再生される

4 メッセージを聞き取った多機能電話機の大型ランプが消灯する

5 受話器を戻す

これで、同報メッセージを聞き取ることができました。

マルチラインデジタルコードレス電話機で聞き取りたい
マルチラインデジタルコードレス電話機の場合、同報メッセージがあると、着信／メッセージ／充電ランプがゆっくり赤点滅します。多機能電話機と同じ操作で、聞き取ることができます。

一般電話機で聞き取りたい
メッセージウェイティングランプ付きの一般電話機の場合、同報メッセージがあると、ランプが点滅します。多機能電話機と同じ操作で、聞き取ることができます。

メールボックスを使いこなすための機能

メールボックスでは、メッセージの聞き取りや録音機能のほかに、さまざまな機能があります。

- メッセージの再生順序を変える
- メッセージの再生を一定時間とばす
- メッセージの再生を一定時間戻す
- メッセージの再生を一時中断する
- 聞き取ったメッセージを、そのままほかの人に送る
- 複数の相手に同じメッセージを録音する
- メッセージが録音されたとき自動呼び出しさせる
- メッセージを録音したあと外線を自動で呼び出す
- 自分のメッセージをすべて消去する
- メッセージ再生中に、相手の番号に電話をかける
- 外線からメッセージを聞き取ったあと、続けて電話をかける

こんなとき

DSSボタンにもランプ表示させたい

「ファンクションボタンの設定」でDSS（内線呼出、状態表示）ボタンを割り付けておくと、メールボックスボタンとしても使用できます。これにより、メールボックスにメッセージが届くと、DSSボタンも赤点滅してお知らせします。詳しくは、販売店にご相談ください。

注意

ボイスメールの操作ボタンは、あらかじめ設定している場合にのみ使用できます。設定のしかたについては『ボイスメールの操作用ボタンを登録する』（⇒P. 1-8）を参照してください。

メッセージの再生順序を変える

自分のメールボックス内のメッセージを聞き取る際、録音日時の新しいものから順番に聞き取るか、古いものから順番に聞き取るかを選択することができます。

1 受話器を上げる

2 ⑧③⑨を押す

839は、ボイスメールセンター呼出の特番（初期値）です。

ガイダンス「音声サービスセンターです。ボックス番号をどうぞ」

3 自分のメールボックス番号を押したあと、＃を押す

例：自分のボックス番号が100番の場合、100＃と押します。

ガイダンス「パスワードをどうぞ」

パスワードを設定していない場合は、手順5に進んでください。

4 パスワードを入力したあと、＃を押す

例：自分のパスワードが「1234」の場合、1234＃と押します。

ガイダンス「サービスコードをどうぞ」

5 次のどちらかのサービスコードを押す

- 録音日時の古いメッセージから再生する場合　：63＃を押す
- 録音日時の新しいメッセージから再生する場合：64＃を押す

ガイダンス「設定しました」

6 受話器を戻す

これで、メッセージの再生順序が変更できました。

メッセージの再生を一定時間とばす

再生中のメッセージを一定時間とばします。

1 メッセージ再生中

2 ▭（スキップボタン）を押す

メッセージをとばして再生します（約8秒）。

※ とばす時間よりメッセージの残り時間が短い場合は、メッセージの再生が終了します。

こんなときは

スキップボタンを設定していない電話機で操作するには

メッセージ再生中に、3＃（メッセージを一定時間とばすオプションコード）を押します。

メッセージの再生を一定時間戻す

再生中のメッセージを一定時間戻します。

1 メッセージ再生中

2 ▭（バックスキップボタン）を押す

メッセージを戻して再生します（約8秒）。

※ 戻す時間よりメッセージの再生時間が短い場合は、メッセージを最初から再生します。

こんなときは

バックスキップボタンを設定していない電話機で操作するには

メッセージ再生中に、6＃（メッセージを一定時間戻すオプションコード）を押します。

メッセージの再生を一時中断する

再生中のメッセージをいったん止めたり、続きから再生することができます。

1 メッセージ再生中

2 ④#を押す
メッセージの再生が一時中断されます。

3 ④#を押す
メッセージが続きから再生されます。

聞き取ったメッセージを、そのままほかの人に送る

自分のメールボックス内のメッセージを、ほかの人にも聞いてもらうために、転送することができます。転送の方法には、次の2通りがあります。
- 一人のメールボックスに転送する
- 複数の人のメールボックスに同時に転送する

▼ 一人のメールボックスに転送する

自分のメールボックス内のメッセージを、1人のメールボックスに転送できます。

1 メッセージの再生終了

ガイダンス「オプションコードをどうぞ」

2 ②#を押す

ガイダンス「コピーするボックス番号をどうぞ」

3 コピー先のメールボックス番号を押したあと、#を押す
例：コピー先のボックス番号が120番の場合、120＃と押します。

ガイダンス「よろしければ、0と＃をダイヤルしてください」

4 ⓪#を押す

ガイダンス「オプションコードをどうぞ」

5 受話器を戻す

これで、1人のメールボックスにメッセージが転送できました。

こんなときは

手順3の操作のあと「ご指定のボックスには、登録できません」というガイダンスが流れたときは

相手のメールボックスのメッセージ録音件数が、200件を超えています。
1つのメールボックスに録音できる件数は、200件までです。

手順4の操作のあと「メッセージは、登録できません」というガイダンスが流れたときは

ボイスメールに録音されている、すべてのメッセージの合計が最大録音時間を超えています。
メッセージをコピーする際や、複数のメールボックスにメッセージを同報する場合、ボイスメールの録音時間の空きがなくなったときには、その同報メッセージは録音失敗となります。

▼ 複数の人のメールボックスに同時に転送する

自分のメールボックス内のメッセージを、一度に複数の人のメールボックスに転送できます(最大100ボックスまで)。

注意

同報短縮番号を利用するには、工事段階での設定が必要です。詳しくは、システム管理者に確認してください。

こんなときは

同報短縮番号とは

複数の人のメールボックス番号を、1つの番号に登録したものです。

1 メッセージの再生終了

ガイダンス「オプションコードをどうぞ」

2 ②⑧(#)を押す

ガイダンス「短縮番号をどうぞ」

3 同報短縮番号(0～9)を押したあと、(#)を押す

ガイダンス「よろしければ、0と#をダイヤルしてください」

4 ⓪(#)を押す

ガイダンス「オプションコードをどうぞ」

5 受話器を戻す

これで、複数の人のメールボックスにメッセージが転送できました。

こんなときは

手順3の操作のあと「現在、メッセージは登録できません」というガイダンスが流れたときは

同報短縮番号に登録されている、いずれかのメールボックスのメッセージ録音件数が、200件を超えています。
1つのメールボックスに録音できる件数は、200件までです。

手順4の操作のあと「メッセージは、登録できません」というガイダンスが流れたときは

ボイスメールに録音されている、すべてのメッセージの合計が最大録音時間を超えています。メッセージをコピーする際や、複数のメールボックスにメッセージを同報する場合、ボイスメールの録音時間の空きがなくなったときには、その同報メッセージは録音失敗となります。

多くの人にメッセージを転送した場合

手順4の操作のあと「オプションコードをどうぞ」というガイダンスが流れるまでに、約1～2分以上の時間がかかります。ガイダンスが流れるまでの時間は、転送した宛先の数とメッセージの録音時間によって異なります。

複数の相手に同じメッセージを録音する

複数の人のメールボックスに、同じメッセージを同時に録音できます。録音の方法には、次の2通りがあります。

- メールボックス番号を直接、指定する
- 同報短縮番号を利用する

注意

同報短縮番号を利用するには、工事段階での設定が必要です。詳しくは、システム管理者に確認してください。

▼ メールボックス番号を直接、指定する

1 受話器を上げる

2 ⑧③⑨を押す

839は、ボイスメールセンター呼出の特番（初期値）です。

ガイダンス「音声サービスセンターです。ボックス番号をどうぞ」

3 ⑳を押したあと、メッセージを録音する相手のメールボックス番号を押す

メッセージを録音する宛先に応じて、手順3の操作をくり返します。
例：相手のボックス番号が250番、251番、252番の場合、＊250＊251＊252と押します。
※ 最大20人まで指定できます。

4 ㊕を押す

ガイダンス「メッセージをどうぞ」

5 メッセージを録音する

6 メッセージの録音が終わったら⑨#を押す

ガイダンス「メッセージを登録しました」

7 受話器を戻す

これで、複数のメールボックスにメッセージが録音できました。

こんなときは

手順4の操作のあと「現在、メッセージは登録できません」というガイダンスが流れたときは

押した相手のメールボックスのメッセージ登録件数が、200 件を超えています。1 つのメールボックスに録音できる件数は、200件までです。

手順6の操作のあと「メッセージは、登録できません」というガイダンスが流れたときは

ボイスメールに録音されている、すべてのメッセージの合計が最大録音時間を超えています。メッセージをコピーする際や、複数のメールボックスにメッセージを同報する場合、ボイスメールの録音時間の空きがなくなったときには、その同報メッセージは録音失敗となります。

多くの人にメッセージを録音した場合

手順6の操作のあと「メッセージを登録しました」というガイダンスが流れるまでに、約1～2分以上の時間がかかります。ガイダンスが流れるまでの時間は、録音した宛先の数とメッセージの録音時間によって異なります。

▼ 同報短縮番号を利用する

同報短縮番号に登録されているメールボックスに、同時にメッセージを録音できます（最大100ボックスまで）。

注意

同報短縮番号を利用するには、工事段階での設定が必要です。詳しくは、システム管理者に確認してください。

こんなときは

同報短縮番号とは

複数の人のメールボックス番号を、1つの番号に登録したものです。

1 受話器を上げる

2 ⑧③⑨を押す

839は、ボイスメールセンター呼出の特番（初期値）です。

ガイダンス「音声サービスセンターです。ボックス番号をどうぞ」

3 自分のメールボックス番号を押したあと、#を押す

例：自分のボックス番号が100番の場合、100＃と押します。

ガイダンス「パスワードをどうぞ」

パスワードを設定していない場合は、手順5に進んでください。

4 パスワードを入力したあと、(#)を押す

例：自分のパスワードが「1234」の場合、1234＃と押します。

ガイダンス「サービスコードをどうぞ」

5 (2)(#)を押す

ガイダンス「短縮番号をどうぞ」

6 同報短縮番号（0～9）を押したあと、(#)を押す

ガイダンス「メッセージをどうぞ」

7 メッセージを録音する

8 メッセージの録音が終わったら(9)(#)を押す

ガイダンス「メッセージを登録しました」

9 受話器を戻す

これで、同報短縮番号に登録されているメールボックスに、メッセージが録音できました。

こんなとき は

手順6の操作のあと「現在、メッセージは登録できません」というガイダンスが流れたときは

同報短縮番号に登録されている、いずれかのメールボックスのメッセージ録音件数が、200件を超えています。
1つのメールボックスに録音できる件数は、200件までです。

手順8の操作のあと「メッセージは、登録できません」というガイダンスが流れたときは

ボイスメールに録音されている、すべてのメッセージの合計が最大録音時間を超えています。メッセージをコピーする際や、複数のメールボックスにメッセージを同報する場合、ボイスメールの録音時間の空きがなくなったときには、その同報メッセージは録音失敗となります。

多くの人にメッセージを録音した場合

手順8の操作のあと「メッセージを登録しました」というガイダンスが流れるまでに、約1～2分以上の時間がかかります。ガイダンスが流れるまでの時間は、同報短縮番号に登録されている宛先の数とメッセージの録音時間によって異なります。

メッセージが録音されたとき自動呼び出しさせる

自分のメールボックスにメッセージが録音されたとき、自動で携帯電話またはPHSなどの外線や、内線を呼び出すことができます。呼出先は、あらかじめ設定しておきます。

注意 この機能は、自分のメールボックスに着信代行が設定されている場合に利用できます。着信代行の設定については『内線留守番サービスの設定と解除』(⇒P. 4-3)を参照してください。

▼ 自動呼び出しを設定する

《 携帯電話やPHSなどの外線のとき 》

1 受話器を上げる

2 ⑧③⑨を押す

839は、ボイスメールセンター呼出の特番（初期値）です。

ガイダンス「音声サービスセンターです。ボックス番号をどうぞ」

3 自分のメールボックス番号を押したあと、#を押す

例：自分のボックス番号が100番の場合、100＃と押します。

ガイダンス「パスワードをどうぞ」

パスワードを設定していない場合は、手順5に進んでください。

4 パスワードを入力したあと、#を押す

例：自分のパスワードが「1234」の場合、1234＃と押します。

ガイダンス「サービスコードをどうぞ」

5 ⑥①#を押す

ガイダンス「現在、メッセージの着信通知は、設定されていません」

設定内容についてガイダンスが流れます。

6 ②#を押す

ガイダンス「電話番号をどうぞ」

7 呼出先の番号を押したあと、#を押す

例：呼び出す番号が03-1234-5678の場合、0312345678＃押します。

ガイダンス「電話番号は××ですね。よろしければ、0と＃をダイヤルしてください」

8 ⓪#を押す

ガイダンス「設定しました。サービスコードをどうぞ」

9 受話器を戻す

これで、外線への自動呼び出しが設定できました。

《 内線電話機のとき 》

1 「携帯電話やPHSなどの外線を呼び出す」の手順1～5までの操作を行う

2 ①#を押す

ガイダンス「内線番号をどうぞ」

3 呼出先の内線番号を押したあと、#を押す

例：内線番号が100番の場合、100＃と押します。

ガイダンス「内線番号は××ですね。よろしければ、0と＃をダイヤルしてください」

4 0#を押す

ガイダンス「設定しました。サービスコードをどうぞ」

5 受話器を戻す

これで、内線電話機への自動呼び出しが設定できました。

▼ 呼び出されたときの操作

自分のメールボックスにメッセージが録音されると、指定した電話機（内線・外線）が呼び出されます。呼び出されたときは、次の操作を行ってください。

注意 この機能は、メールボックスにパスワードが設定されていないと利用できません。必ずパスワードを設定してください。

1 音声サービスセンターから着信

2 受話器を上げる

ガイダンス「音声サービスセンターです。ボックス番号××にメッセージが登録されました。パスワードをどうぞ」

3 パスワードを入力したあと、#を押す

例：自分のパスワードが「1234」の場合、1234＃と押します。

ガイダンス「××件です」

4 メッセージが再生される

〈1つのメッセージを聞き取ると〉

ガイダンス「オプションコードをどうぞ」

5 次のいずれかのオプションコードを入力する

- メッセージをくり返し再生　：1＃を押す
- メッセージを消去し次を再生：7＃を押す
- メッセージを保存し次を再生：9＃を押す

6 受話器を戻す

メッセージを録音したあと外線を自動で呼び出す

不在の人あての電話を受けて通話録音したあと、相手の携帯電話またはPHSなどの外線を呼び出すことができます。この呼出は、録音先のメールボックスに着信代行が設定されていなくても利用できます。

注意

- 録音先のメールボックスに、外線へのメッセージ着信通知が設定されている必要があります。設定方法については『メッセージが録音されたとき自動呼び出しさせる』（⇒P. 2-19）を参照してください。
- 「ファンクションボタンの設定」により通話録音-呼出ボタンを電話機に割り付けておく必要があります。
  詳しくは、システム管理者に確認してください。

1 通話録音中

通話録音のしかたについては『通話録音サービスの使いかた』（⇒P. 3-2）を参照してください。

2 通話録音内容を保存したいメールボックス番号を押したあと(#)を押す（またはメールボックスボタンを押す）

3 （通話録音-呼出ボタン）を押す

4 受話器を戻す

自分のメッセージをすべて消去する

自分のメールボックス内のすべてのメッセージを、消去することができます。

注意

この操作をすると、聞き取ったメッセージも聞き取っていないメッセージもすべて消去されます。メッセージを消去しても良いかどうかを確認してから操作してください。

1 受話器を上げる

2 (8)(3)(9)を押す

839は、ボイスメールセンター呼出の特番（初期値）です。

ガイダンス「音声サービスセンターです。ボックス番号をどうぞ」

3 自分のメールボックス番号を押したあと、(#)を押す

例：自分のボックス番号が100番の場合、100＃と押します。

ガイダンス「パスワードをどうぞ」

パスワードを設定していない場合は、手順5に進んでください。

4 パスワードを入力したあと、(#)を押す

例：自分のパスワードが「1234」の場合、1234＃と押します。

ガイダンス「サービスコードをどうぞ」

5 (7)(#)を押す

ガイダンス「メッセージをすべて消去します。よろしければ、0と＃をダイヤルしてください」

6 (0)(#)を押す

ガイダンス「メッセージをすべて消去しました。サービスコードをどうぞ」

7 受話器を戻す

これで、すべてのメッセージが消去できました。

メッセージ再生中に、相手の番号に電話をかける

メッセージを再生したとき、表示器に発信者番号が表示されている場合は、発信ボタンを押すだけでその番号に電話をかけることができます。

注意 発信者番号を表示させる機能を利用するには、工事段階での設定が必要です。詳しくは、システム管理者に確認してください。

1 メッセージを再生する

表示器に発信者番号が表示されます。

メッセージの再生のしかたについては『自分あてのメッセージを聞く』(⇒P. 2-7)を参照してください。

2 発信を押す

3 相手が出たら通話する

4 受話器を戻す

外線からメッセージを聞き取ったあと、続けて電話をかける

外出先の電話機からメールボックスにアクセスしてメッセージを聞いたあと、ボイスメールのサービスを終了させて、電話をかけることができます。

1 **外出先からメールボックスにアクセスして、メッセージを聞く**

- 内線留守番サービスを利用している場合
  『内線留守番サービスの使いかた』の『外線からメッセージを聞く』(⇒P. 4-10)を参照してください。
- 外線留守番サービスを利用している場合
  『外線留守番サービスの使いかた』の『外線からメッセージを聞く』(⇒P. 4-16)の手順1～手順6を参照してください。

2 **⑤⓪(#)を押す**

50＃は、内線呼出のサービスコードです。

3 **呼出先の内線番号を押す**

通常とは違う音（特殊ダイヤルトーン）が聞こえている間に、呼出先の内線番号を押してください。

4 **相手が出たら通話する**

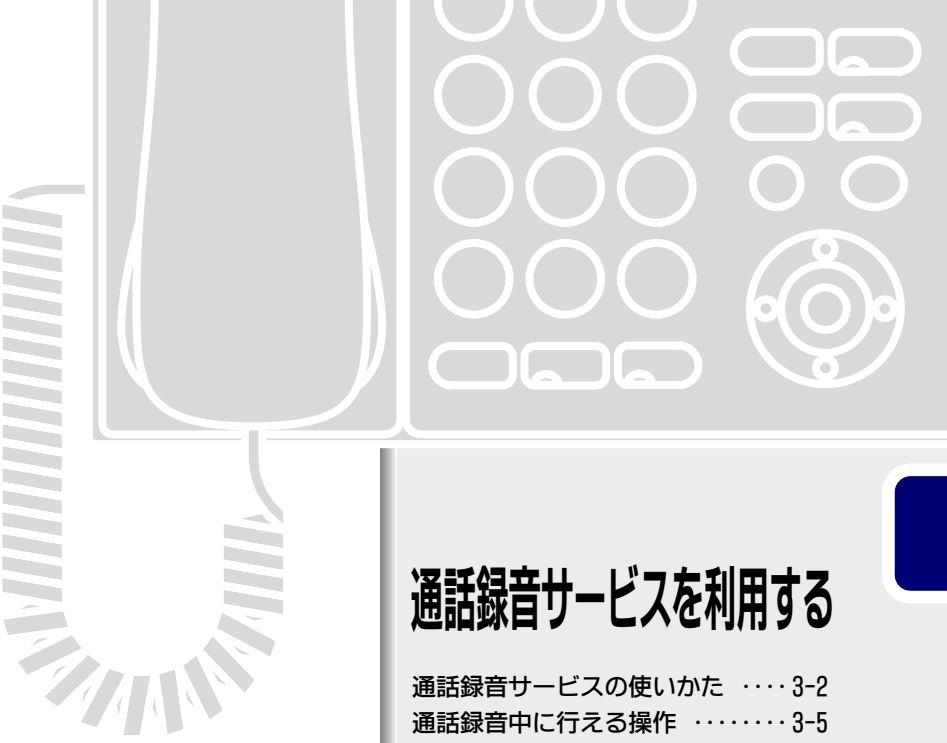
5 **受話器を戻す（通話を終了する）**

こんなときは

外線からメッセージを聞き取ったあと、続けて外線に電話をかける場合

手順2で51＃を押してください。以降の操作は次のとおりです。

① ユーザー IDを押す
② 呼出先の番号を押す
③ 相手が出たら通話する
④ 通話を終了する



通話録音サービスを利用する

通話録音サービスの使いかた ・・・・3-2
通話録音中に行える操作 ・・・・・・・・3-5

通話録音サービスの使いかた

通話録音サービスを利用するには、工事段階の設定が必要です。次のことをシステム管理者に確認した上で通話録音サービスをご利用ください。

- 発着信時に自動で通話録音ができる外線かどうか：『常に通話を録音する』(⇒P. 3-2) を参照
- 自分の電話機で手動通話録音ができるかどうか　：『手動で通話を録音する』(⇒P. 3-3)を参照

注意

- あらかじめ、ボイスメールの操作用ボタンを設定している場合にのみ使用できます。設定のしかたについては『ボイスメールの操作用ボタンを登録する』(⇒P. 1-8) を参照してください。
- 通話録音ボタンのランプが点滅しない場合は、ボイスメールの回線がすべて使用中のため、通話録音ができない状態です。時間をおいてから、再度、通話録音ボタンを押してください。もし、このような状態がひんぱんに起こるようでしたら、システム管理者にご相談ください。
- 通話録音の内容を保存するには、必ず通話録音中にメールボックス番号を入力してください。回線の設定により、相手側が電話を切ったあとでは入力できない場合があります。また、ボイスメールの設定によっては、録音内容が消去されますのでご注意ください。

常に通話を録音する

＜ 外線自動通話録音 ＞

外線自動通話録音が設定された回線への着信に、受話器を上げて応答すると同時に、自動で通話録音が行えます。また、発信時の外線自動通話録音が設定された回線から電話をかけ、相手が応答すると同時に、自動で通話録音が行えます。

注意

外線自動通話録音を利用するには、工事段階での設定が必要です。

1 **外線着信中または外線発信中**
外線発信中の場合は、手順4に進んでください。

2 **受話器を上げる**
受話器を上げるだけで応答できるように設定してある電話機の場合は、手順4に進んでください。

3 応答 **または点滅している（外線ボタン）を押す**

4 **相手と通話する**
通話録音が始まり、通話録音ボタンが速く赤点滅します。

5 **通話録音の内容を保存したいメールボックス番号を押したあと#を押す（またはメールボックスボタンを押す）**

6 受話器を戻す

録音内容が、手順5で指定したメールボックスに送られます。

こんなときは

通話録音の内容を送るメールボックスを変更したい

電話を切る前に、手順5の操作をやり直してください。

手順5の操作のあと「ピーッ」と音がしたときは

保存したいメールボックスのメッセージ録音件数が200件を超えているため、登録先のメールボックスが確定されていません。ほかのメールボックスを指定し直してください。
1つのメールボックスに録音できる件数は、200件までです。

外線ごとに、通話録音するかどうかを指定したい

通話録音ができる電話機に対して、さらに外線ごとに通話録音するかどうかを設定できます。この場合、工事段階の設定が必要です。詳しくは、販売店にご相談ください。

手動で通話を録音する

＜ 手動通話録音 ＞

発信、着信に関係なく、外線通話を録音したいときに録音できます。

1 外線と通話中

2 （通話録音ボタン）を押す

通話録音が始まり、通話録音ボタンが速く赤点滅します。

以降の操作は「常に通話を録音する」の手順5以降と同じです。

こんなときは

通話録音中に保留したいとき

通話中に保留ボタンを押すと、通話と通話録音の両方を一時中断します。保留した電話機で再応答すると、通話と通話録音の両方が再開します。ほかの電話機で応答すると、工事段階の設定により、通話録音が取り次ぎ先の電話機で継続されるか、または終了します。詳しくは、システム管理者に確認してください。

通話録音中に行える操作

次の操作が行えます。詳しくは、各機能の項を参照してください。
- 録音内容のキャンセル　：『録音内容を消去する』（⇒P.3-5）を参照
- 録音内容のキャンセルと再録音：『録音内容を消去したあと録音を再度行う』（⇒P.3-5）を参照

他の内線を呼び出して会議通話をした場合

会議通話は通話録音できないため、録音は終了します。通話を切ったあとの動作は、下記の「録音内容の保存先を指定しなかった場合」を参照してください。

録音内容の保存先を指定しなかった場合

次のいずれかになります。詳しくは、システム管理者に確認してください。
- 録音していた電話機、または取り次ぎ先の電話機に自動呼び返しがかかる
  （『ボイスメールからの呼び返しに応答する』（⇒P.3-4）を参照）
- 宛先不明ボックスに保存される
- 録音内容が消去される

ボイスメールからの呼び返しに応答する

通話録音中に、録音内容の保存先を指定しなかった場合、受話器を戻すと、ボイスメールから呼び返しがかかるように工事段階で設定できます。呼び返しに応答したあと、次の操作を行ってください。

1 音声サービスセンターから着信中

2 受話器を上げる

ガイダンス「音声サービスセンターです。ただ今の録音内容を保存するボックス番号をどうぞ」

3 保存するメールボックス番号を押したあと、#を押す

例：保存するボックス番号が107番の場合、107＃と押します。

ガイダンス「メッセージを登録します」

4 受話器を戻す

これで、指定したメールボックスに録音内容が保存されました。

注意

- 呼び返しに応答しなかった場合には、録音内容は消去されます。
- 手順3でメールボックス番号を指定しないで受話器を戻すと、メッセージは消去されます。

工事段階で宛先不明ボックスが設定されている場合

自動呼び返しをせずに宛先不明ボックスに保存されます。詳しくは、システム管理者に確認してください。

通話録音中に行える操作

あらかじめ次のボイスメール操作ボタンを設定しておくと、通話録音中に使用することができます。
- 消去ボタン
- 消去・再録音ボタン

ここでは、各ボタンが設定されているときに行う操作について説明します。設定のしかたについては『ボイスメールの操作用ボタンを登録する』(⇒P. 1-8)を参照してください。

録音内容を消去する

＜ 消去ボタン ＞

消去ボタンを押すまでの録音内容を消去します。消去ボタンを押したあとも、通話は続けられます。

1 通話録音中

2 ▭(消去ボタン)を押す

これで、録音内容が消去できました。

録音内容を消去したあと録音を再度行う

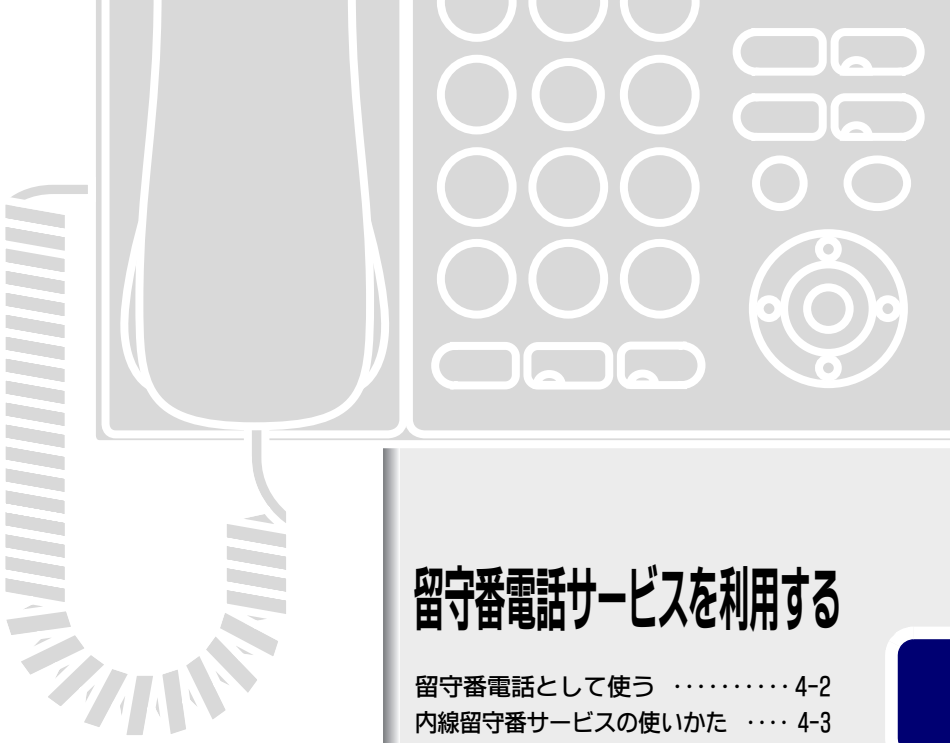
＜ 消去・再録音ボタン ＞

消去・再録音ボタンを押すまでの録音内容を消去し、新たに通話録音を開始します。消去・再録音ボタンを押したあとも、通話は続けられます。

1 通話録音中

2 ▭(消去・再録音ボタン)を押す

これで、録音内容の消去と新たに通話録音が開始できました。
以降の操作については『常に通話を録音する』(⇒P. 3-2)の手順5以降を参照してください。



留守番電話サービスを利用する

留守番電話として使う ・・・・・・・・・・4-2
内線留守番サービスの使いかた ・・・・ 4-3
外線留守番サービスの使いかた ・・・ 4-12
受注伝言サービスの使いかた ・・・4-17

留守番電話として使う

不在時や通話中に内線にかかってきた電話や、夜間または休日などに指定された電話番号（回線）にかかってきた電話に、ボイスメールが留守番電話として応対します。留守番電話機能の使いかたには、次の2種類があります。

内線留守番サービス ▶ 着信代行を設定した電話機で利用できます。内線や外線から直接内線にかかってくる電話に、ボイスメールが応対します。

外線留守番サービス ▶ 夜間や休日などに指定された電話番号（回線）にかかってきた電話にボイスメールが応対します。
※ 工事段階の設定が必要です。

また、留守番電話サービスを活用して、次のサービスを利用することもできます。

受注伝言サービス ▶ お客様からの注文など、大量のメッセージをボイスメールが自動で受け付けます。数人の受付担当者で手分けして、注文や問い合わせに対応することができます。

内線留守番サービスの使いかた

内線留守番サービスでは、不在時、内線にかかってきた電話に対し、ボイスメールが応対し、相手のメッセージの録音などが行えます（着信代行）。
録音されたメッセージの確認のしかたは、メールボックスサービスの利用方法と同じです。詳しくは『自分あてのメッセージを聞く』（⇒P. 2-7）を参照してください。

ここでは、内線留守番サービスを利用するための設定や、応答メッセージの登録、外出先の電話機からメッセージを確認する方法について説明します。

注意

- ボイスメールの操作用ボタンは、あらかじめ設定している場合のみ使用できます。設定のしかたについては『ボイスメールの操作用ボタンを登録する』（⇒P. 1-8）を参照してください。
- 内線留守番サービスが設定されている場合は、受話器を上げたときに通常とは違う音（内線ダイヤルトーン）が聞こえます。

内線留守番サービスの設定と解除

内線留守番サービスの設定／解除のしかたには、次の2通りがあります。
- 留守番電話ボタンを設定しているとき
- 音声ガイダンスを利用するとき

▼ 留守番電話ボタンを設定しているとき

《 設定のしかた 》

1 （留守番電話ボタン）を押す
留守番電話ボタンが赤点灯します。

これで、内線留守番サービスが設定できました。
設定した内線にかかってきたすべての電話に、ボイスメールが応対します。

こんなとき

通話中にかかってきた着信にもボイスメールで応対したい（話中代行）
赤点灯している留守番電話ボタンを押します。赤点滅して話中代行が設定されます。

《 解除のしかた 》

1 赤点灯している（留守番電話ボタン）を2回押す
留守番電話ボタンが赤点滅したあと消灯します。

これで、内線留守番サービスが解除できました。

こんなときは

話中代行を利用している場合
留守番電話ボタンが赤点滅しています。留守番電話ボタンを1回押すと解除できます。

▼ 音声ガイダンスを利用するとき

留守番電話ボタンが設定されていない電話機で、内線留守番サービスを設定または解除するときは、音声ガイダンスに従って操作します。

《 設定・解除のしかた 》

1 受話器を上げる

2 ⑧③⑨を押す
839は、ボイスメールセンター呼出の特番（初期値）です。
ガイダンス「音声サービスセンターです。ボックス番号をどうぞ」

3 自分のメールボックス番号を押したあと、#を押す
例：自分のボックス番号が100番の場合、100＃と押します。
ガイダンス「パスワードをどうぞ」
パスワードを設定していない場合は、手順5に進んでください。

4 パスワードを入力したあと、#を押す
例：自分のパスワードが「1234」の場合、1234＃と押します。
ガイダンス「サービスコードをどうぞ」

5 ⑥②#を押す
- 着信代行が設定されていない場合
  ガイダンス「着信代行の設定ですね」
- 着信代行が設定されている場合
  ガイダンス「着信代行の解除ですね」

ガイダンス「よろしければ、0と＃をダイヤルしてください」

6 ⓪#を押す
- 設定の場合
  ガイダンス「着信代行を、設定しました」
- 解除の場合
  ガイダンス「着信代行を、解除しました」

ガイダンス「サービスコードをどうぞ」

7 受話器を戻す

これで、内線留守番サービスが設定または解除できました。

注意 留守番電話ボタンを設定していない電話機では、話中代行の設定はできません。

応答メッセージの録音・確認・消去

内線留守番サービスの応答メッセージは、メールボックスごとに3つ録音できます。着信代行を設定して内線留守番サービスを使用する場合は、この応答メッセージを送出後、相手メッセージの録音を開始します。応答メッセージを登録していないときは、既成の応答メッセージを送出します。
応答メッセージの切り替えかたについては『応答メッセージを切り替える』(⇒P. 4-7)を参照してください。

ここでは、応答メッセージNo. 1の操作を例に説明しています。

こんなとき

応答メッセージNo. 2、No. 3のサービスコードについて
『サービス・オプションコード一覧表』(⇒P. 2-3)を参照してください。

話中代行を設定している場合
通話中の電話機にかかってきた電話に対して、応答メッセージNo. 3を流すように工事段階で設定できます。詳しくは、販売店にご相談ください。
また、この設定を利用している場合、留守番応答時は応答メッセージNo. 1、No. 2のみ利用できます。

《 録音のしかた 》

1 受話器を上げる

2 ⑧③⑨を押す
839は、ボイスメールセンター呼出の特番（初期値）です。
ガイダンス「音声サービスセンターです。ボックス番号をどうぞ」

3 自分のメールボックス番号を押したあと、#を押す
例：自分のボックス番号が100番の場合、100＃と押します。
ガイダンス「パスワードをどうぞ」
パスワードを設定していない場合は、手順5に進んでください。

4 パスワードを入力したあと、#を押す
例：自分のパスワードが「1234」の場合、1234＃と押します。
ガイダンス「サービスコードをどうぞ」

5 ③②#を押す
ガイダンス「メッセージをどうぞ。ピピッ」

6 応答メッセージを受話器で録音する

7 メッセージの録音が終わったら⑨(#)を押す

ガイダンス「応答メッセージを登録しました。サービスコードをどうぞ」

8 受話器を戻す

これで、応答メッセージが録音できました。

注意 受話器を戻すときは、静かに戻してください。乱暴に戻すと、応答メッセージの最後に「ガチャン」という音が入ってしまいます。

こんなとき便利 **既成の応答メッセージの内容**
- 応答メッセージ送出後に録音可能な場合
  「ただいま不在です。ご用件をうけたまわります。メッセージをどうぞ」
- 応答メッセージ送出後に録音不可の場合
  「ただいま不在です。のちほどおかけ直しください」

《 確認のしかた 》

1 「録音のしかた」の手順1～4の操作を行う

ガイダンス「サービスコードをどうぞ」

2 ③①(#)を押す
- 応答メッセージが登録されている場合
  メッセージが再生されます。
- 応答メッセージが登録されていない場合

ガイダンス「メッセージは登録されていません。サービスコードをどうぞ」

3 受話器を戻す

これで、応答メッセージが確認できました。

《 消去のしかた 》

1 「録音のしかた」の手順1～4の操作を行う

ガイダンス「サービスコードをどうぞ」

2 ③⑦(#)を押す

ガイダンス「応答メッセージを消去します。よろしければ、0と＃をダイヤルしてください」

3 ⓪(#)を押す

ガイダンス「メッセージを消去しました。サービスコードをどうぞ」

4 受話器を戻す

これで、応答メッセージが消去できました。

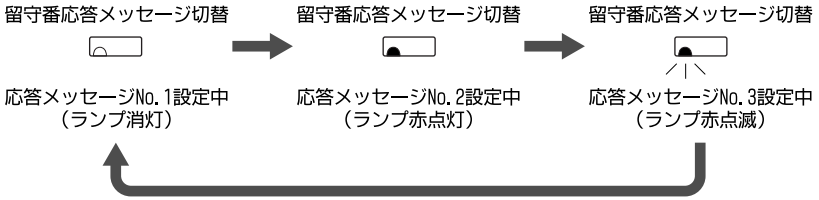
応答メッセージを消去すると
既成の応答メッセージに戻ります。

応答メッセージを切り替える

あらかじめ、留守番応答メッセージ切替ボタンを設定しておくと、応答メッセージを用途に応じて切り替えることができます。設定のしかたについては『ボイスメールの操作用ボタンを登録する』(⇒P. 1-8)を参照してください。
応答メッセージの録音・確認・消去については『応答メッセージの録音・確認・消去』(⇒P. 4-5)および『サービス・オプションコード一覧表』(⇒P. 2-3)を参照してください。

1 (留守番応答メッセージ切替ボタン）を押す

留守番応答メッセージ切替ボタンを押すたびに、応答メッセージとボタンのランプ表示が次のように切り替わります。



話中代行を設定している場合
通話中の電話機にかかってきた電話に対して、応答メッセージNo. 3を流すように工事段階で設定できます。詳しくは、販売店にご相談ください。
また、この設定を利用している場合、留守番応答時は応答メッセージNo. 1、No. 2のみ選択できます。

選択した応答メッセージが登録されていない場合
応答メッセージNo. 1を送出します。応答メッセージNo. 1も登録されていない場合は、既成の応答メッセージを送出します。

相手のメッセージを録音しないようにする

離席中や不在時、内線にかかってきた電話に対して応答メッセージだけを流し、相手のメッセージは録音しないように設定することができます。

1 受話器を上げる

2 ⑧③⑨を押す

839は、ボイスメールセンター呼出の特番（初期値）です。

ガイダンス「音声サービスセンターです。ボックス番号をどうぞ」

3 自分のメールボックス番号を押したあと、#を押す

例：自分のボックス番号が100番の場合、100＃と押します。

ガイダンス「パスワードをどうぞ」

パスワードを設定していない場合は、手順5に進んでください。

4 パスワードを入力したあと、#を押す

例：自分のパスワードが「1234」の場合、1234＃と押します。

ガイダンス「サービスコードをどうぞ」

5 ⑥⑥#を押す

- メッセージの登録が規制されていない場合

  ガイダンス「メッセージの登録規制の設定ですね。よろしければ、0と＃をダイヤルしてください」

- メッセージの登録が規制されている場合

  ガイダンス「メッセージの登録規制の解除ですね。よろしければ、0と＃をダイヤルしてください」

6 ⓪#を押す

- 設定する場合

  ガイダンス「メッセージの登録規制を設定しました。サービスコードをどうぞ」

7 受話器を戻す

これで、相手のメッセージを録音できないようにする設定ができました。

こんなとき

相手のメッセージを録音しないようにする設定を行うと

自分のメールボックスボタンのランプが遅い赤点滅に変わります。応答メッセージを登録していない場合、応答メッセージの内容が既成の「ただいま不在です。のちほどおかけ直しください」に変わります。

内線留守番サービスを利用している電話機に電話をかける

電話をかけた内線相手がメッセージ録音可能な着信代行を設定している場合は、メッセージを録音することができます。外線から直接内線を呼べる機能（DIL、DID、NTTダイヤルイン、ISDN回線のサブアドレスダイヤルイン）を利用している場合も、同様にメッセージを録音できます。内線留守番サービスを利用しているときは、次のように動作します。

外線から直接内線を呼べる機能について
工事段階の設定が必要です。詳しくは、システム管理者に確認してください。

1 **内線に電話をかける**
例：相手の内線番号が100番の場合、100と押します。

2 **応答メッセージが流れる**
- メッセージが録音できる場合
  例：「ただいま不在です。ご用件をうけたまわります。メッセージをどうぞ。ピピッ」
  メッセージを録音してください。
- メッセージが録音できない場合
  例：「ただいま不在です。のちほどおかけ直しください」
  メッセージを録音しないように設定されています。改めて電話をかけ直してください。

3 **受話器を戻す**
メッセージが録音されました。

外線からメッセージを聞く

外出先の電話機から、メールボックス内のメッセージを聞くことができます。このサービスは、直接内線を呼べる機能（DIL、DID、NTTダイヤルイン、ISDN回線のサブアドレスダイヤルイン）や、通常の着信応答で着信代行を設定している内線に転送してもらうと利用することができます。

注意

- 外出先で使用する電話機は、プッシュ信号（PB）を送出できる電話機を使用してください。
- メッセージが録音されている内線電話機に、着信代行が設定されている場合のみ聞くことができます。
- この機能は、パスワード（メールボックスごと）が設定されている場合のみ利用できます。

▼ 内線に直接電話をかける

1 外出先から電話をかける

着信代行を設定している内線電話機に、プッシュ信号（PB）を送出できる電話機から電話をかけます（または転送してもらいます）。

2 応答メッセージが流れる

例：「ただいま不在です。ご用件をうけたまわります。メッセージをどうぞ。ピピッ」

3 パスワードを入力したあと、(#)を押す

例：メッセージを聞くメールボックスのパスワードが「1111」の場合、1111＃と押します。

ガイダンス「サービスコードをどうぞ」

4 (1)(#)を押す

ガイダンス「××件です」

5 メッセージが再生される

メッセージは、最新のものから順番に再生されます（初期設定）。
〈1つのメッセージを聞き取ると〉

ガイダンス「オプションコードをどうぞ」

6 オプションコードを入力する

『サービス・オプションコード一覧表』(⇒P. 2-3)を参照してください。
オプション機能を使用しない場合は、手順7に進んでください。

7 受話器を戻す（通話を終了する）

こんなときは

手順3で＃を入力したあと“プー”という音が聞こえた場合

パスワードが間違っています。パスワードを入力し直してください。パスワードが間違っているとメッセージを聞くことができません。

▼ 音声サービスセンターに電話をかける

音声サービスセンターを直接呼び出せる電話番号に電話をかけるか、電話に出た人に音声サービスセンターに転送してもらうことによって利用できます。

注意

音声サービスセンターを直接呼び出すには、工事段階での設定が必要です。
詳しくは、システム管理者に確認してください。

1 外出先から電話をかける

音声サービスセンターを直接呼び出せる電話番号に、電話をかけます（または転送してもらいます）。

ガイダンス「音声サービスセンターです。ボックス番号をどうぞ」

2 メッセージを聞くメールボックス番号を押したあと、#を押す

例：メッセージを聞くメールボックスの番号が100番の場合、100＃と押します。

ガイダンス「パスワードをどうぞ」

3 パスワードを入力したあと、#を押す

例：メッセージを聞くメールボックスのパスワードが「1234」の場合、1234＃と押します。

ガイダンス「サービスコードをどうぞ」

4 1#を押す

ガイダンス「××件です」

5 メッセージが再生される

メッセージは、最新のものから順番に再生されます（初期設定）。
〈1つのメッセージを聞き取ると〉

ガイダンス「オプションコードをどうぞ」

6 オプションコードを入力する

『サービス・オプションコード一覧表』(⇒P. 2-3)を参照してください。
オプション機能を使用しない場合は、手順7に進んでください。

7 受話器を戻す（通話を終了する）

こんなとき

手順3で＃を入力したあと“プー”という音が聞こえた場合

パスワードが間違っています。パスワードを入力し直してください。パスワードが間違っているとメッセージを聞くことができません。

外線留守番サービスの使いかた

夜間、休日などに指定された外線にかかってきた電話に、ボイスメールが留守番電話として応対します。
保存されたメッセージは、メールボックスサービスの利用方法と同じ方法で確認できます。詳しくは『自分あてのメッセージを聞く』(⇒P. 2-7)を参照してください。このとき、自分のメールボックスではなく、外線留守番ボックスのメールボックス番号を指定してください。

ここでは、応答メッセージの登録や、外線留守番サービス利用時の動作、外出先の電話機からメッセージを確認する方法について説明します。

注意 外線留守番サービスを利用するには、工事段階の設定が必要です。詳しくは、システム管理者に確認してください。

応答メッセージの録音・確認・消去

＜ VRSメッセージ編集 ＞

外線留守番サービス利用時に送出される応答メッセージは、VRSメッセージを使用します。

注意 VRSメッセージは、最大100種類まで録音できます。ただし、次の機能で使用するメッセージの合計数が100以下となるようにしてください。
- 外線留守番サービスの応答メッセージ
- 着信お待たせメッセージ
- オートアテンダントメッセージ

《 録音のしかた 》

1 受話器を上げる

2 ㊟②⓪を押す
＊20は、VRSメッセージ編集の特番（初期値）です。

3 ⑦を押す
7は、録音の番号です。

4 VRSメッセージ番号（001～100）を押す

5 応答メッセージを受話器で録音する

6 受話器を戻す

これで、応答メッセージが録音できました。

注意 受話器を戻すときは、静かに戻してください。乱暴に戻すと、応答メッセージの最後に「ガチャン」という音が入ってしまいます。

《 確認のしかた 》

登録した応答メッセージを再生して、確認できます。

1 受話器を上げる

2 ＊20を押す
＊20は、VRSメッセージ編集の特番（初期値）です。

3 5を押す
5は、聴取の番号です。

4 VRSメッセージ番号（001～100）を押す

5 応答メッセージが再生される

6 受話器を戻す

これで、応答メッセージが確認できました。

《 消去のしかた 》

録音した応答メッセージを消去する場合は、次の操作を行ってください。

1 受話器を上げる

2 ＊20を押す
＊20は、VRSメッセージ編集の特番（初期値）です。

3 3を押す
3は、消去の番号です。

4 VRSメッセージ番号（001～100）を押す

5 指定した応答メッセージが消去される

6 受話器を戻す

これで、応答メッセージが消去できました。

応答メッセージを指定する

＜ 外線留守番サービスの応答メッセージ番号設定 ＞

外線留守番サービス利用時に送出される応答メッセージの番号（000～100）を設定します。

1 スピーカを押す

2 ＊36を押す

＊36は、外線留守番サービスの送出ガイダンス番号設定の特番（初期値）です。

```
留守番電話ｶﾞｲﾀﾞﾝｽ変更
外線:001-200 ?
```

3 外線番号を押す

```
留守番電話ｶﾞｲﾀﾞﾝｽ変更
ﾓｰﾄﾞ:1-8 ?
```

4 応答メッセージを流したい時間帯の番号を押す

時間帯は、1～8の中から選ぶことができます。

```
留守番電話ｶﾞｲﾀﾞﾝｽ変更
ｶﾞｲﾀﾞﾝｽ番号:000-100 ?
```

5 VRSメッセージ番号（000～100）を押す

セット音が聞こえます。

※ 000を押した場合は、固定ガイダンスが選択されます。

```
変更しました
```

6 スピーカを押す

これで、応答メッセージ番号が指定できました。

外線留守番サービスを利用している外線に電話をかける

外線留守番サービスを利用しているときは、次のように動作します。

1 お客様から電話がかかってくる

2 応答メッセージが流れる

- メッセージが録音できる場合
  例：「本日の業務は終了いたしました。ご用件をうけたまわります。メッセージをどうぞ。ピピッ」
  お客様がメッセージを録音します。
- メッセージが録音できない場合（手順3に進んでください）
  例：「本日の業務は終了いたしました。明日またおかけ直しください」

3 お客様が電話を切る

メッセージが録音された外線留守録ボックスのメールボックスボタンが赤点滅し、大型ランプが緑点滅します。

注意 手順2でメッセージを受け付けないようにするには、工事段階の設定が必要です。

こんなとき 手順2でメッセージを録音しない場合
応答メッセージが流れたあとに、通話を終了します。

外線からメッセージを聞く

外線留守録ボックスに録音されたメッセージを、外から聞くことができます。

注意

- この機能は、外線留守録ボックスにパスワードが設定されている場合のみ使えます。
- 工事段階での設定が必要です。詳しくは、システム管理者に確認してください。

1 **外線から電話をかける**

プッシュ信号（PB）を送出できる電話機から電話をかけます。

2 **応答メッセージが流れる**

例：「本日の業務は終了いたしました。ご用件をうけたまわります。メッセージをどうぞ。ピピッ」

3 **留守番ボックスのパスワードを入力したあと、(#)を押す**

例：留守番応答するメールボックスのパスワードが「1234」の場合、1234＃と押します。

ガイダンス「サービスコードをどうぞ」

4 **(1)(#)を押す**

メッセージが再生されます。

ガイダンス「××件です」

5 **メッセージが再生される**

メッセージは、最新のものから順番に再生されます（初期設定）。
〈1つのメッセージを聞き取ると〉

ガイダンス「オプションコードをどうぞ」

6 **オプションコードを入力する**

『サービス・オプションコード一覧表』(⇒P. 2-3)を参照してください。
オプション機能を使用しない場合は、手順7に進んでください。

7 **受話器を戻す（通話を終了する）**

こんなときは

手順3で＃を入力したあと“プー”という音が聞こえた場合

パスワードが間違っています。パスワードを入力し直してください。パスワードが間違っているとメッセージを聞くことができません。

受注伝言サービスの使いかた

お客様からの注文など、大量のメッセージを録音する必要がある場合に、複数のメールボックスで順番に受け付けることができます。注文メッセージがほぼ均等に各メールボックスに録音されるので、数人の受付担当者で手分けをして、注文の処理を短時間で行うことができます。

注意

- NTTダイヤルインを代表番号として運用している場合のみ、利用できます。
- 受注伝言サービスを利用するには、工事段階での設定が必要です。詳しくは、販売店に確認してください。

受注伝言サービスの動作

受注伝言サービスでは、次のような流れで受注用のメールボックスにメッセージが録音されます。

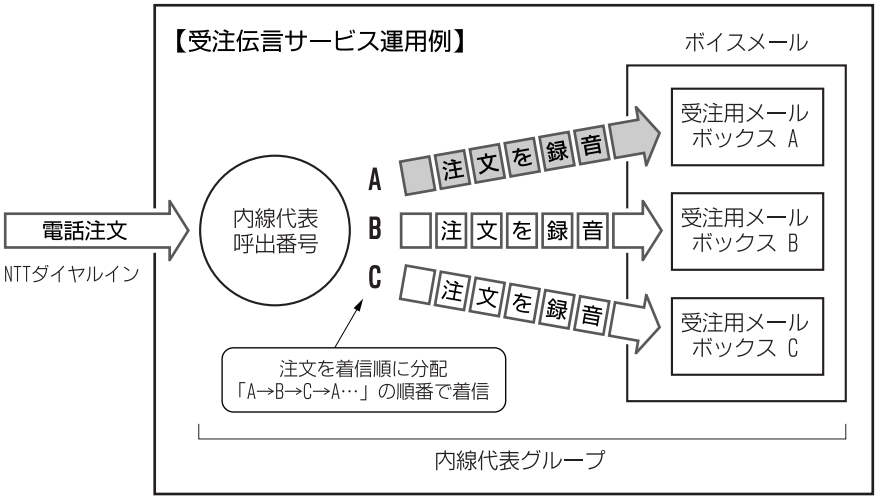
1 お客様から電話がかかってくる

NTTダイヤルインのサブアドレスにかかってきた電話が内線代表呼出番号に着信し、同じ内線代表グループの内線番号（仮想内線）に、順番で振り分けられます。

2 応答メッセージが流れる

例：「はい、□□商事です。ご注文を承ります。」

3 各受注用メールボックスに注文内容が録音される



各担当者が行うこと

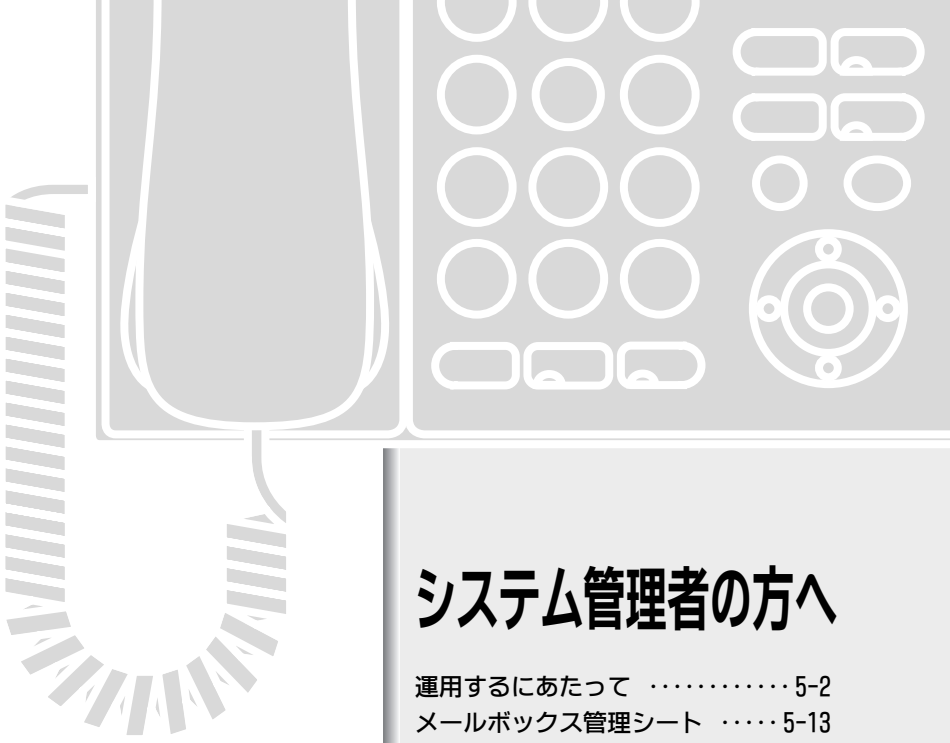
受注伝言サービスを利用するために各担当者が行う設定および操作は、次のとおりです。

▼ システム管理者

- 販売店への工事設定依頼
  受注伝言サービスを行うために、販売店に下記の工事設定を依頼してください。
  - 内線代表呼出番号および仮想内線番号の設定
    例：内線代表呼出番号 … 500（内線代表グループ番号2）、仮想内線番号…501～503
  - 内線代表グループの設定
    例：仮想内線番号501～503 … 内線代表グループ番号2
  - NTTダイヤルイン番号と内線代表呼出番号の連動設定
  - 仮想内線番号と同一番号の受注用メッセージボックスの作成
    「着信代行時の内線グループ着信」… する
- 受注用メールボックスの設定
  受注用メールボックスに対して、名前（“注文受付No.1”など）および注文受付用の留守番メッセージを録音しておきます。また、内線留守番サービス（着信代行）を設定します。

▼ 受付担当者

受注用メールボックスに録音された注文を聞き取り、手配します。注文を聞き取ったあと、保存の必要がないものは、そのつど削除してください。



システム管理者の方へ

運用するにあたって ・・・・・・・・・・・・5-2
メールボックス管理シート ・・・・・5-13

運用するにあたって

ボイスメールを運用するにあたり、システム管理者の方に知っておいていただきたいことについて説明します。

ボイスメールの仕様

システム内に設定できるメールボックスの数と、録音件数および録音時間については、次の表を参照してください。

項　目		仕　様
品　名		IP3WW-VMDB-B1
音声符号化方式		PCM方式
メールボックス数		合計で500個
宛先不明ボックス数		
最大メッセージ件数		200件／1ボックス
最大録音時間		短時間ボイスメール：2時間 長時間ボイスメール：120時間（オプション　IP3WW-CF-B1）
最大同時利用可能数		CPU-A：8台 CPU-B：16台 ※ システムの制御ユニットによって台数が異なります。 CPU-A1にMEMDB-A1（オプション）を実装すると、同時利用可能台数が「16台」になります。
環境条件	保管時	温度：－20～60℃ 湿度：　8～80%（結露させないこと）
	動作時	温度：　5～60℃ 湿度：　20～80%（結露させないこと）

保守および機器の交換について

▼ 保守契約について

ボイスメールは精密機器です。

販売店とご相談の上、保守契約をお結びくださるようお願いいたします。

メールボックスの種類

メールボックスには、次の3種類があります。

- メールボックス　：内線番号（仮想内線含む）、内線代表番号に対応し、利用者1人1人に割り当てられるボックスです。内線留守番サービス利用時も、このボックスを使います。

- 外線留守録ボックス：夜間や休日など、指定された外線にかかってきた電話に、ボイスメールが留守番電話として応対するためのボックスです。

- 宛先不明ボックス　：通話録音終了後、メッセージの宛先が不明なときにメッセージを保管するためのボックスです。

ボイスメールを利用するための設定

ボイスメールは、会社の業務に合わせて活用できるように、次の4種類のサービス機能を持っています。
- メールボックスサービス
- 通話録音サービス
- 内線留守番サービス
- 外線留守番サービス

上記のサービスは、1つだけ、または組み合わせて使用できます。ただし、メールボックスサービスは、ボイスメールの基本となるサービスですので、ほかのサービスを使用する場合にもメールボックスサービスの使用が前提となります。

各サービスを使用するためには、工事段階での設定やシステム管理者による設定が必要となります。詳しくは、販売店とご相談の上、設定を行ってください。

ボイスメール基本設定

< PRG 40-01 >

設定者レベル　IN：設置工事者　SA：システム管理者1

設定項目	設定データ	初期値	概　要	設定者レベル
ボイスメール専用チャネル指定	0：VRS機能と共有する 1～16	0	ボイスメール用のポート数を設定	IN
タイムスタンプ指定	0：タイムスタンプしない 1：タイムスタンプする	1	メッセージ再生時、メッセージの録音日時を音声ガイダンスで読み上げるか、読み上げないかを設定	IN
転送時の通話録音動作	0：継続しない 1：継続する	1	通話録音時、保留転送後も録音を継続するか、継続しないかを設定	IN
自動着信代行	0：しない 1：する	1	電話機が存在しないメールボックスに自動着信代行させるかさせないかを設定	IN
メンテナンス時刻の設定	0000～2359 ※「0000」は設定なし	0000	VMDBユニット上のコンパクトフラッシュのメンテナンスを行う時刻を設定	IN

設定項目	設定データ	初期値	概　要	設定者レベル
メール自動消去の設定	0～180（日）	0	PRG 40-01-05で設定した時刻に、メールを自動消去する経過日数を設定 ※「0」を設定した場合、自動消去は行いません。	IN
着信代行中のVMDB-VM離脱機能の設定	0：しない 1：する	0	着信代行、外線留守番応答でボイスメールが応答したとき、下記のサービスコードの入力を許可するか、許可しないかを設定 • 50＃：DID着信への切替 • 51＃：DISA着信への切替 • 52＃：ダイヤルイン変換テーブルによる転送	IN
録音メッセージ再生中の発ID表示機能の設定	0：発信者番号を表示しない 1：発信者番号を表示する	0	着信代行や留守番電話、着信時の通話録音によってメッセージが録音されたとき、発信者番号が通知されていた場合、該当のメッセージを再生中に、発信者番号を表示するか、表示しないかを設定 ※ 発信者番号を表示中に発信ボタンを押すと、表示番号に発信することができます。	IN
着信代行時の内線グループ着信	0：しない 1：する	0	ボイスメールによる着信代行が設定されている電話機を、内線グループ着信先とみなすか、みなさないかを設定 ※ 受注伝言サービスを利用するときは、必ず「する」に設定してください。	IN

メールボックス番号の設定

< PRG 40-02 >

設定者レベル　IN：設置工事者　SA：システム管理者1

設定項目	設定データ	初期値	概　要	設定者レベル
メールボックス番号	ダイヤル番号, *, # (最大8桁)	−	メールボックスの追加、変更 ※ 内線番号、内線代表番号と同じ番号を設定してください。	SA
パスワード	ダイヤル番号, *, # (4桁固定)	−	メールボックスのパスワードを設定 ※ 設定しなくてもメールボックスは利用できます。	SA

留守録動作設定

< PRG 40-03 >

設定者レベル　IN：設置工事者　SA：システム管理者1

設定項目	設定データ	初期値	概　要	設定者レベル
録音時間	1〜10（分）	1	留守番録音の最大録音時間を設定	IN
録音不可時のガイダンス	0：固定ガイダンス 1：メールボックスの応答メッセージ	0	留守番録音ができない場合、メールボックスの応答メッセージを送出するか、固定ガイダンスを送出するかを設定	IN
話中時応答メッセージ自動送出	0：しない 1：する	0	通話中に着信した場合、ボイスメールで応答し、応答メッセージを送出するかを設定	IN

通話録音動作設定

< PRG 40-04 >

設定者レベル　IN：設置工事者　SA：システム管理者1

設定項目	設定データ	初期値	概　要	設定者レベル
宛先未設定時の処理	0：宛先不明ボックス登録 1：呼び返し動作	1	通話録音終了時、メッセージの宛先が不明な場合の動作を設定	IN
宛先不明メッセージ用ボックス	0～500	0	宛先不明メッセージを保管するボックス番号を設定	IN
通話録音表示	0：する 1：しない	0	通話録音中に、多機能電話機のディスプレイ上へ、録音状態を表示するか、表示しないかを設定	IN
宛先不明時の呼び返し先	0：通話録音を起動した内線 1：最後に通話していた内線	0	通話録音の宛先不明時呼び返し機能で、呼び返し先の内線を、通話録音を起動した内線か、最後に通話していた内線かを設定	IN

着信通知動作設定

< PRG 40-05 >

設定者レベル　IN：設置工事者　SA：システム管理者1

設定項目	設定データ	初期値	概　要	設定者レベル
最大同時発呼数	0～16	1	ボイスメールのポートが、着信通知処理（自動呼び出し）で、同時に何回線まで発呼可能とするかを設定 ※「0」を設定するとボイスメールは発呼できなくなり、着信通知機能は動作しません。	IN

設定項目	設定データ	初期値	概　要	設定者レベル
発信外線グループ番号	0～100	1	外線発信時に使用するルートテーブルを設定 ※「0」を設定するとボイスメールは発呼できなくなり、着信通知機能は動作しません。	IN
ISDN発番号設定	ダイヤル番号, *, # （最大16桁）	－	ISDN回線で発信時の、発信者番号を設定	IN
呼出間隔（内線）	1～30（分）	10	内線呼出時の呼出間隔時間を設定	IN
呼出間隔（外線）	1～30（分）	10	外線呼出時の呼出間隔時間を設定	IN
最大呼出回数（内線）	1～100（回）	3	内線呼出時の最大呼出回数を設定	IN
最大呼出回数（外線）	1～100（回）	3	外線呼出時の最大呼出回数を設定	IN

外線留守録動作設定

＜ PRG 40-06 ＞

設定者レベル　IN：設置工事者　SA：システム管理者1

設定項目	設定データ	初期値	概　要	設定者レベル
動作モード	0：留守番録音動作 1：未使用	0	留守番録音をするか、しないかを設定	IN
送出ガイダンス番号	0～100	0	ボイスメール応答時に送出するVRSメッセージ番号を設定 ※「0」を設定すると固定ガイダンスを送出します。	
登録用メールボックス番号	0：未設定 1～500	0	外線留守番ボックス用のメッセージボックス番号を設定 ※ 未設定の場合は、相手からのメッセージを録音できません。	

固定ガイダンス言語設定（システム単位）

< PRG 40-07 >

設定者レベル　IN：設置工事者　SA：システム管理者1

設定項目	設定データ	初期値	概　要	設定者レベル
固定ガイダンス言語	0：日本語 1：英語（米国）	0	固定ガイダンスの言語を設定	IN

固定ガイダンス言語設定（メールボックス単位）

< PRG 40-08 >

設定者レベル　IN：設置工事者　SA：システム管理者1

設定項目	設定データ	初期値	概　要	設定者レベル
固定ガイダンス言語	0：日本語 1：英語（米国）	0	固定ガイダンスの言語を設定	IN

同報グループ設定

< PRG 40-09 >

設定者レベル　IN：設置工事者　SA：システム管理者1

設定項目	設定データ	初期値	概　要	設定者レベル
同報グループ設定	ダイヤル番号, *, # （最大8桁）	－	PRG 40-02で設定されたメールボックス番号を設定	IN

音声アナウンス機能設定

< PRG 40-10 >

設定者レベル　IN：設置工事者　SA：システム管理者1

設定項目	設定データ	初期値	概　要	設定者レベル
VRS同報メッセージ設定	0：未設定 1～100：VRSメッセージ番号	0	VRS同報メッセージに使用するVRSメッセージ番号を設定	IN
発番号非通知拒否におけるVRSメッセージ設定	0：メッセージなし 1～100：VRSメッセージ番号 101：固定ガイダンス	0	発番号が非通知のときの着信拒否時に送出するVRSメッセージを設定 ※ 固定ガイダンス=「サービスを中止します。電話をお切りください」	IN
発番号による着信拒否におけるVRSメッセージ設定	0：メッセージなし 1～100：VRSメッセージ番号 101：固定ガイダンス	0	発番号通知のときの着信拒否時に送出するVRSメッセージを設定 ※ 固定ガイダンス=「サービスを中止します。電話をお切りください」	IN

その他の設定

次の設定は、ボイスメールを運用する際、必要に応じて設定します。
詳しくは、販売店にご相談ください。

設定者レベル　IN：設置工事者　SA：システム管理者1

PRG番号	設定項目	概　要	設定者レベル
10-01	時計カレンダー設定	ガイダンスに送出される日時の設定	SA
10-07	通話録音用リソース指定	通話録音用に会議リソースを確保するための通話録音数の設定	IN
11-04	仮想内線番号設定	受注受付用の仮想内線番号を設定（受注伝言サービス利用時）	IN
11-07	内線代表呼出番号設定	受注受付用の内線代表呼出番号を設定（受注伝言サービス利用時）	IN
11-12-39	ボイスメールセンター呼出	ボイスメールセンターにアクセスするための番号を設定（初期値：839）	IN
12-01	運用モード機能設定	システムの運用モードの切替方法の選択（外線留守番サービス利用時）	IN
12-02	自動運用モード切替の時間割設定	自動切替運用モードの1日のパターンの設定（外線留守番サービス利用時）	SA
12-03	運用モードの週間スケジュール設定	運用モードの週間スケジュールの設定（外線留守番サービス利用時）	SA
12-04	運用モードの特定日スケジュール設定	運用モードの年間スケジュールの設定（外線留守番サービス利用時）	SA
14-09	外線ごとの通話録音先設定	「通話録音先内線番号」「自動通話録音」「録音先ボックスの指定」「発信時の自動通話録音」の設定	IN
15-07	多機能電話機の機能ボタン設定	「メールボックス」「ボイスメールサービス」「通話録音サービス」「留守番電話」「留守番応答メッセージ切替」の機能ボタンの設定	IN
15-12	電話機ごとの通話録音先設定	「通話録音先内線番号」「自動通話録音」「録音先ボックスの指定」「発信時の自動通話録音」の設定	IN
16-01	内線代表グループデータ設定	受注受付用の内線代表呼出番号の内線代表グループ番号に対して、「簡易UCD」を設定（受注伝言サービス利用時）	IN

PRG番号	設定項目	概　要	設定者レベル
16-02	電話機の内線グループ設定	着信を振り分ける仮想内線番号に対して内線代表グループ番号を設定（受注伝言サービス利用時）	IN
22-05	一般着信の着信先設定	ボイスメールを選択（外線留守番サービス利用時）	IN
22-07	DIL着信の着信先設定	着信させる内線番号の設定（内線留守番サービス利用時）	IN
22-08	未応答着信時の着信先設定	ボイスメールを選択（外線留守番サービス利用時）	IN
22-09	NTTダイヤルイン基本データ設定	「サブアドレス着信モード」で着信させる内線／内線代表呼出番号の設定（内線留守番サービス／受注伝言サービス利用時）	IN
22-11	ダイヤルイン変換テーブルデータ設定	「第1転送先指定」「第2転送先指定」でボイスメールを選択（外線留守番サービス利用時）	IN
22-12	ダイヤルイン変換テーブルエリアごとの転送先設定	ボイスメールを選択	IN
25-01	DID／DISAラインごとの基本データ設定	DID／DISA利用時の基本設定（内線留守番サービス利用時）	IN
25-03	DID／DISA誤ダイヤル時の着信先設定	ボイスメールを選択	IN
25-04	DID／DISA未応答・話中時の転送先設定	ボイスメールを選択	IN
30-03	DSSコンソールのボタン／ディスプレイボードのランプ設定	「メールボックス」「ボイスメールサービス」「通話録音サービス」「留守番電話」「留守番応答メッセージ切替」の機能ボタンの設定	IN

メールボックス管理シート

音声サービスセンター 呼 出 番 号	内線	初期値：839	
	外線		

ボックスNo.	氏　名	ボックス番号	パスワード
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
0			
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
0			

ボックスNo.	氏　名	ボックス番号	パスワード
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
0			
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
0			

索　引

あ

相手のメールボックスに
　直接メッセージを録音 2-9
相手のメッセージを録音しない 4-8
宛先不明ボックス 5-3
応答メッセージ
　・外線留守番サービス 4-12
　・内線留守番サービス 4-5
応答メッセージの確認 4-6, 4-13
応答メッセージの切替 4-7
応答メッセージの指定 4-14
応答メッセージの消去 4-6, 4-13
応答メッセージの録音 4-5, 4-12
音声アナウンス機能設定 5-10
音声ガイダンスに従って
　メッセージを聞く 2-8
音声サービスセンターに電話をかける.... 4-11

か

外線からメッセージを聞き取ったあと、
　続けて電話をかける 2-23
外線からメッセージを聞く 4-10, 4-16
　・音声サービスセンターに
　　電話をかける 4-11
　・内線に直接電話をかける 4-10
外線自動通話録音 1-3, 3-2
外線留守番サービス 1-4, 4-12
外線留守番サービスの
　応答メッセージ番号設定 4-14
外線留守番サービスを利用している
　外線に電話をかける 4-15
外線留守録動作設定 5-8
外線留守録ボックス 5-3
基本的な操作のしかた 2-2
携帯電話や PHS などの外線を呼び出す.... 2-19
ご使用上の注意 1-5
固定ガイダンス言語設定
　・システム単位 5-9
　・メールボックス単位 5-9

さ

サービス・オプションコード一覧表 ... 2-3
再生順序を変える 2-12
再生を一時中断 2-14
再生を一定時間とばす 2-13
再生を一定時間戻す 2-13
システム管理者の方へ 5-1
自動呼び出しの設定 2-19
　・携帯電話や PHS などの外線 2-19
　・内線電話機 2-20
自分のメッセージをすべて消去 2-21
受注伝言サービス 4-17
　・各担当者が行うこと 4-18
　・動作 4-17
手動通話録音 1-3, 3-3
手動で通話を録音 3-3
使用環境について 1-5
消去ボタン 3-5
消去・再録音ボタン 3-5
その他の設定 5-11

た

着信代行 4-3
着信通知動作設定 5-7
通話内容を録音 1-3
通話録音サービス 1-3, 3-1
　・使いかた 3-2
通話録音中に保留したいとき 3-3
通話録音動作設定 5-7
常に通話を録音 3-2
転送
　・一人のメールボックス 2-14
　・複数のメールボックス 2-15
同報グループ設定 5-9
同報短縮番号を利用する 2-17
同報メッセージ 2-10
同報メッセージの確認 2-10
同報メッセージの消去 2-11
同報メッセージの録音 2-10
同報メッセージを聞き取る 2-11

な

内線電話機を呼び出す 2-20
内線に直接電話をかける 4-10
内線留守番サービス 1-4, 4-3
内線留守番サービスの設定と解除 4-3
　・音声ガイダンスを利用するとき ... 4-4
　・留守番電話ボタンを
　　設定しているとき 4-3
内線留守番サービスを利用している
　電話機に電話をかける 4-9

内・外線留守番サービス 1-4

は

パスワード
・消去 2-6
・設定 2-5
・変更 2-6
一人のメールボックスに転送する 2-14
複数の相手に同じメッセージを録音.... 2-16
・同報短縮番号を利用 2-17
・メールボックス番号を直接指定 ... 2-16
複数の人のメールボックスに
同時に転送する 2-15
プライバシー保護 1-5
ボイスメール
・基本設定 5-4
・仕様 5-2
・操作用ボタン 1-6, 1-7, 1-8
・利用できる電話機 1-5
ボイスメールからの呼び返しに
応答する 3-4
ボイスメール操作用ボタン 1-6
・機能 1-7
・登録 1-8
ボイスメールでできること 1-2
ボイスメールを利用するための設定 ... 5-4
・音声アナウンス機能 5-10
・外線留守録動作 5-8
・基本設定 5-4
・固定ガイダンス言語
（システム単位）..... 5-9
・固定ガイダンス言語
（メールボックス単位）..... 5-9
・その他の設定 5-11
・着信通知動作 5-7
・通話録音動作 5-7
・同報グループ 5-9
・メールボックス番号 5-6
・留守録動作 5-6
保守および機器の交換 5-2
ボタンランプ表示 1-7

ま

メールボックス 2-1, 5-3
メールボックス管理シート 5-13
メールボックスサービス 1-2
メールボックスとは 1-2
メールボックスの種類 5-3
メールボックス番号の設定 5-6
メールボックス番号を直接指定..... 2-16
メールボックスボタン..... 2-7
メールボックスを使いこなすための機能 2-12
メッセージが録音されたとき
自動呼び出しさせる 2-19
・外線を呼び出す 2-19
・内線を呼び出す 2-20
・呼び出されたときの操作 2-20
メッセージ再生中に、
相手の番号に電話をかける 2-22
メッセージランプ（デジタル多機能電話機
の大型ランプ）のランプ表示 1-8
メッセージを聞く..... 2-7
・音声ガイダンス 2-8
・メールボックスボタン 2-7
メッセージをほかの人に送る..... 2-14
・一人のメールボックス 2-14
・複数のメールボックス 2-15
メッセージを録音..... 2-9
メッセージを録音したあと外線を
自動で呼び出す 2-21

ら

留守番電話サービス..... 4-1
留守番電話として利用する..... 1-4
留守録動作設定..... 5-6
録音..... 2-10, 4-5, 4-12
録音時間残量警告表示..... 1-5
録音内容を消去..... 3-5
録音内容を消去したあと録音を再度行う ... 3-5
話中代行..... 4-3

数字

1 度の操作で複数の人に
メッセージを録音 2-10

A ～ Z

DSS コンソールのメールボックスボタンの
ランプ表示 1-8
VRS メッセージ編集 4-12

NECインフロンティア株式会社

本社　〒101-8532　東京都千代田区神田司町2-3

A50-013786-001　第1版
2008.1